

石立
 稽古
 四直基自在
 三目之部全
 二

79
 3704
 2

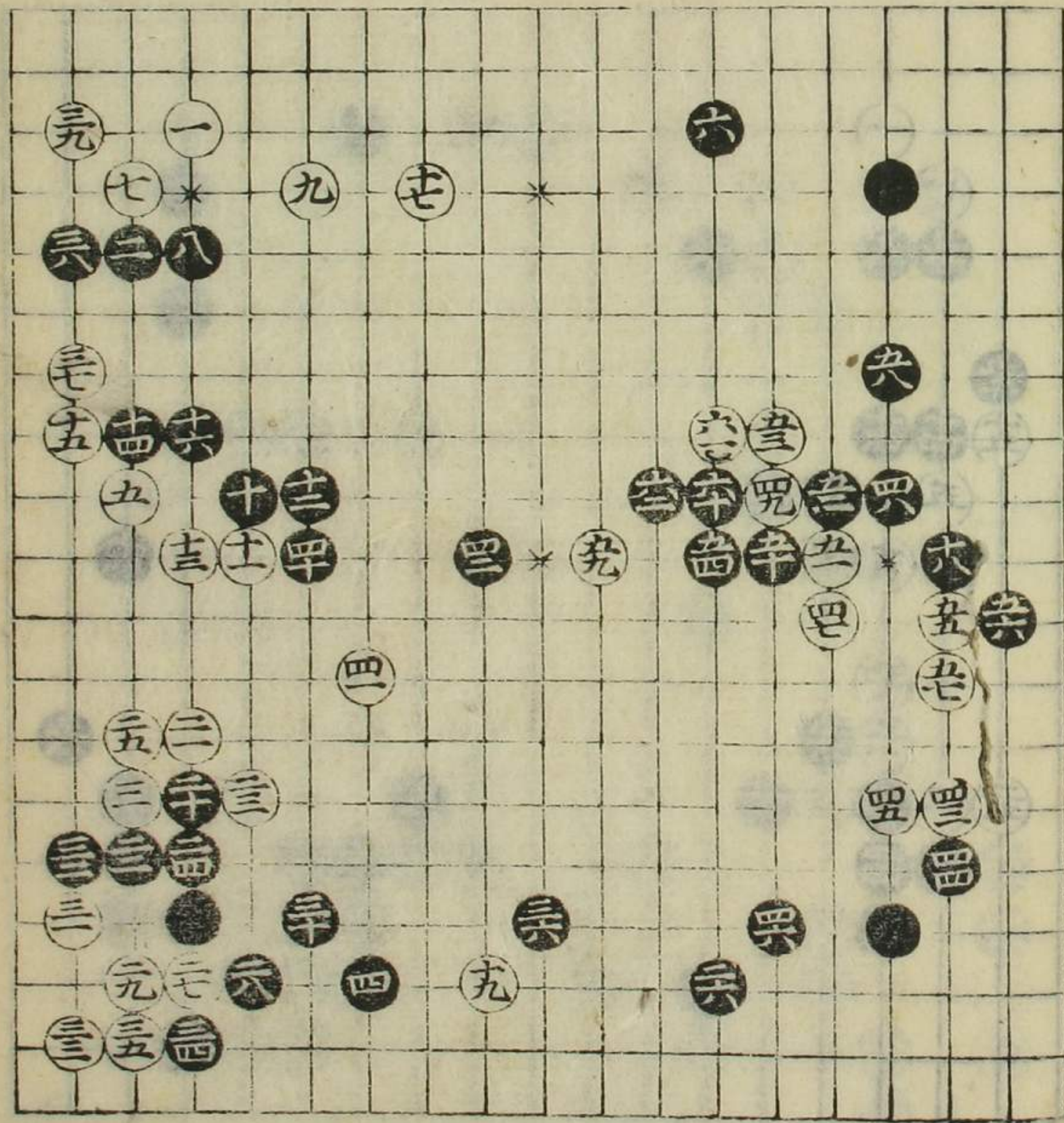


門 7 9
 3704
 2

置碁自在

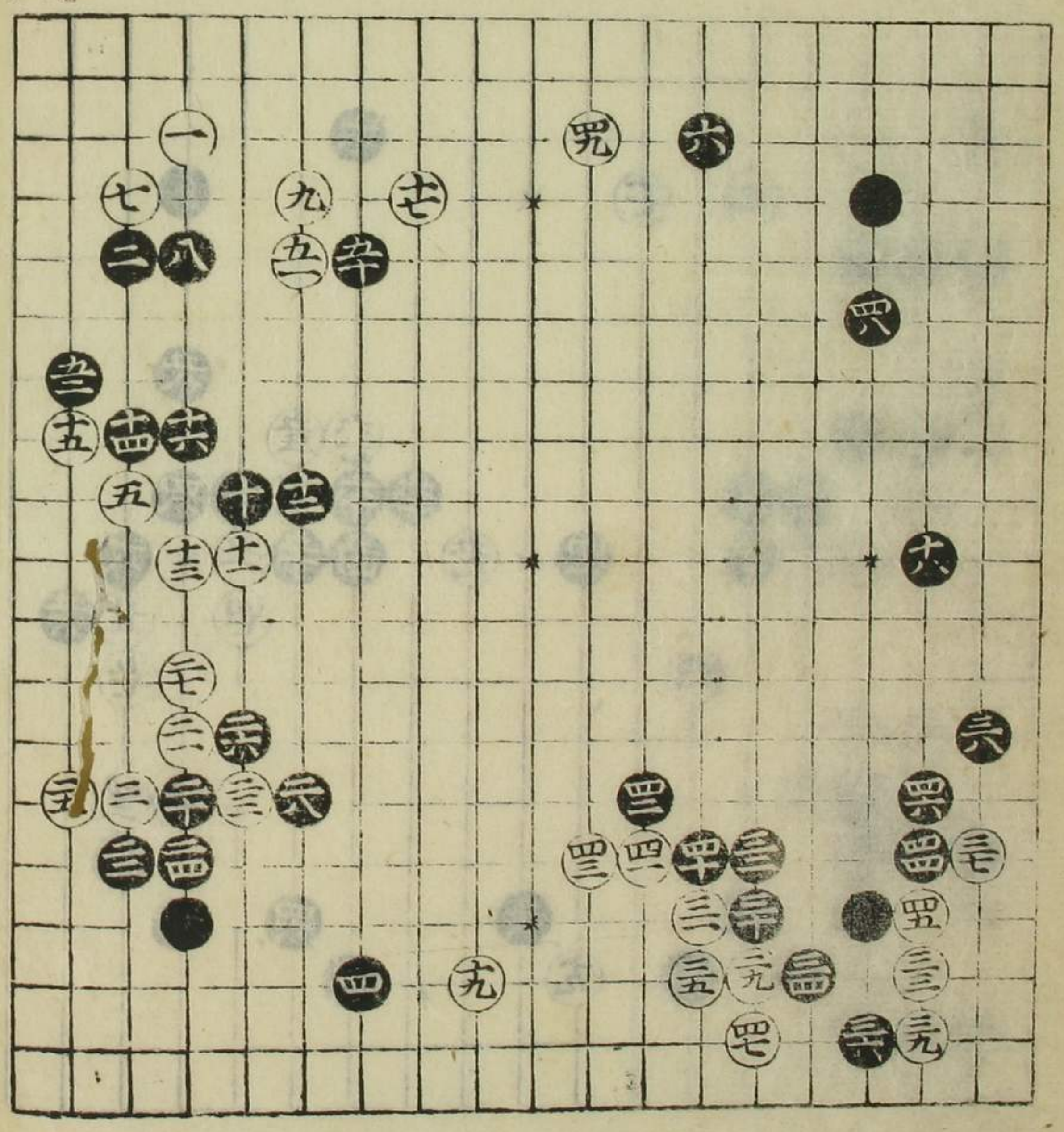
黑二十付て此打者
 白十七付て此打者
 此碁の碁石記之
 六二と打て此碁
 子かは是試可也ハ
 治たてた者
 振替次小記之
 十八者
 三十六者

三目置之部



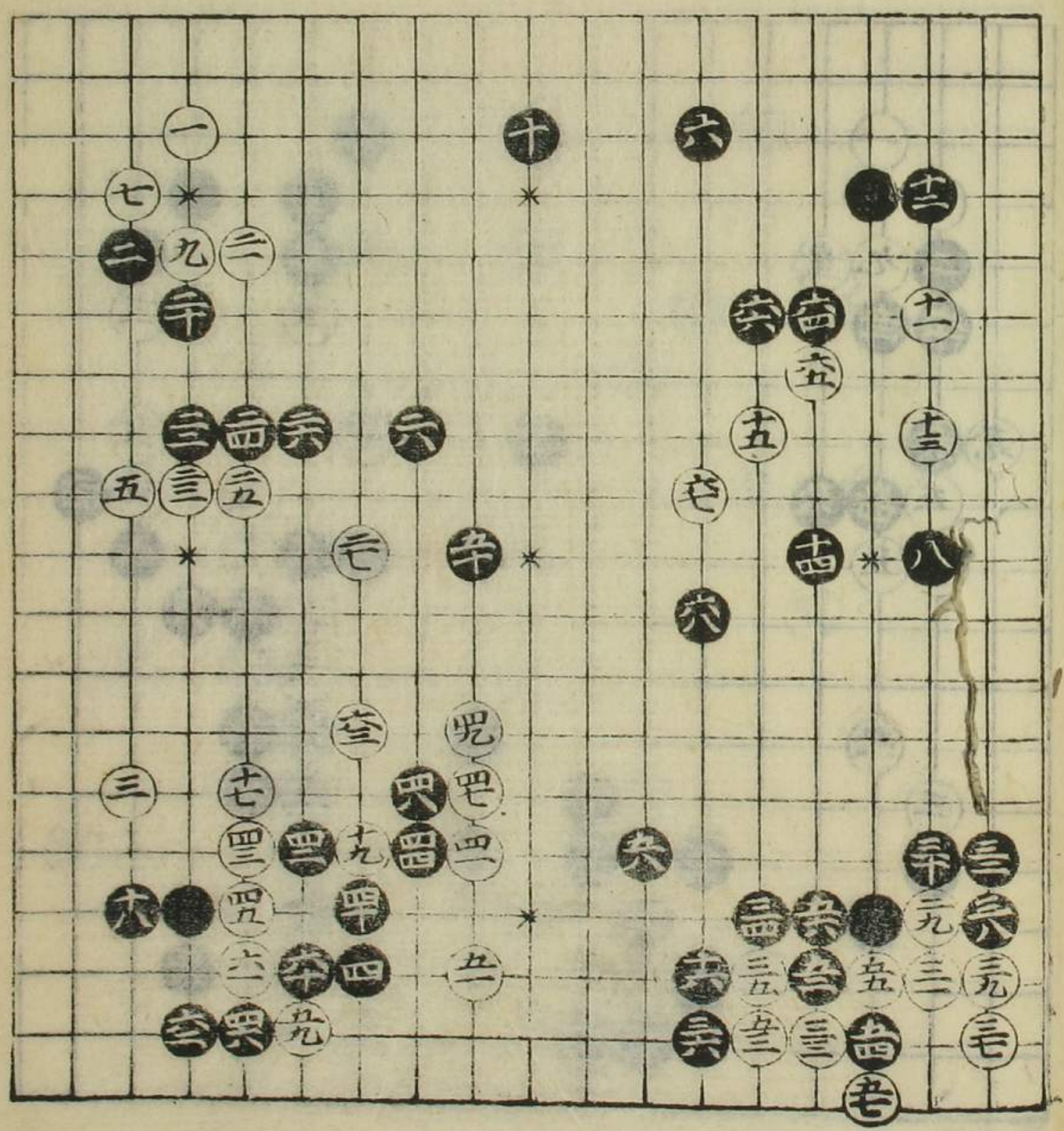
白二五とぬび打ハ一
 月取て折ぬ世なり
 てハ黒大位やうく
 折ぬき形之五十已
 折五二とぬ是打
 越向大と者
 此石五と大と者
 十八者

置碁自介

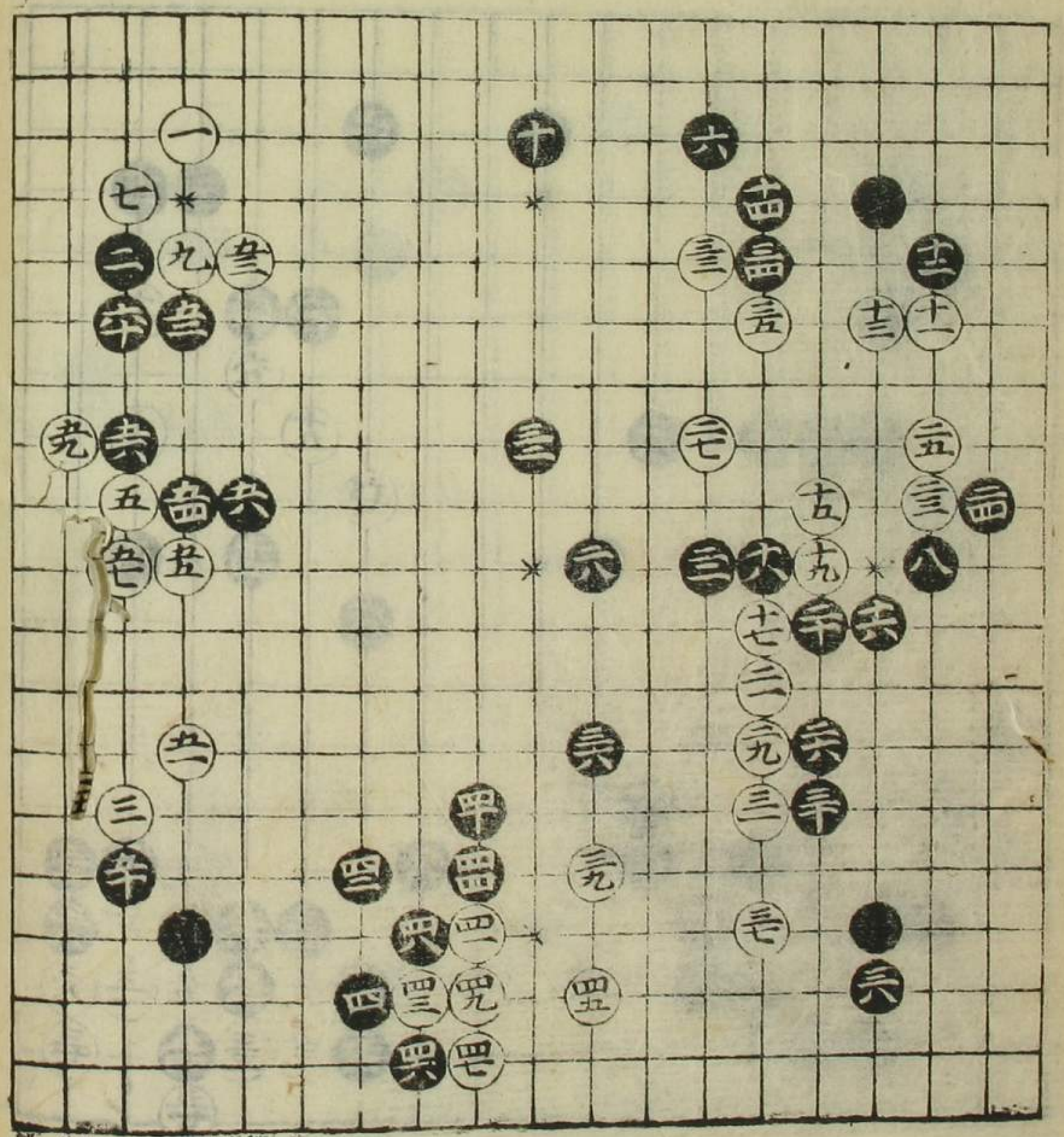


黒八の十とけと大
 場ゆき今をうら
 白十九の時ぬと二十
 と折三と折越向
 常に打も能あり
 若林古池

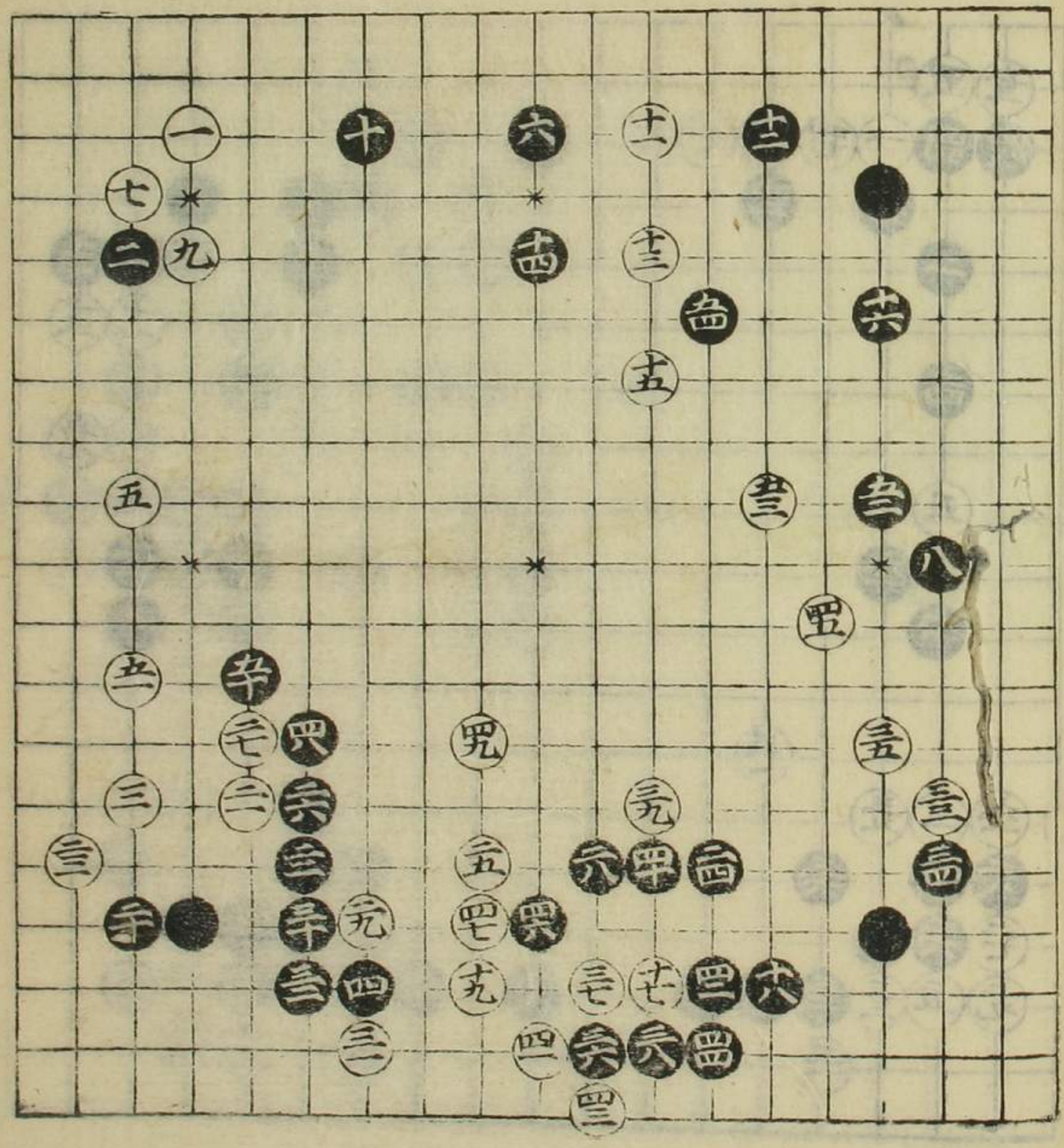
三目置碁部



黒十八越す一三三六
 と折子後右考へ足
 原一ぬ是上より折
 志より一五二とて
 折進向右名均足し
 三八吉

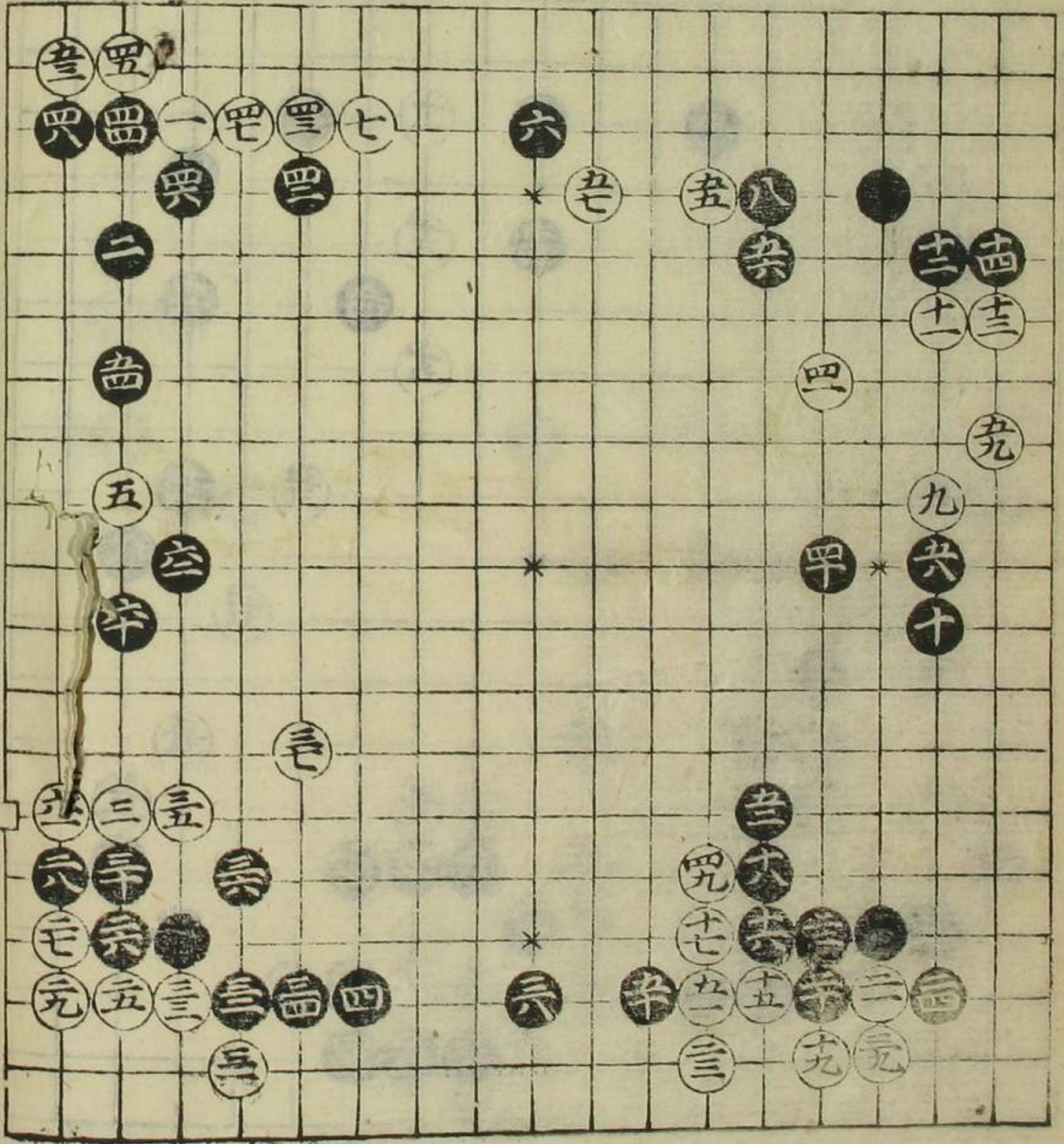


二世取あて清きま
 有り二四と折二六と折
 進向右考へ足一五
 十と一と一と一と一と
 成しは一向清き石
 立也折次一記之
 六吉
 八吉
 十吉
 十六吉

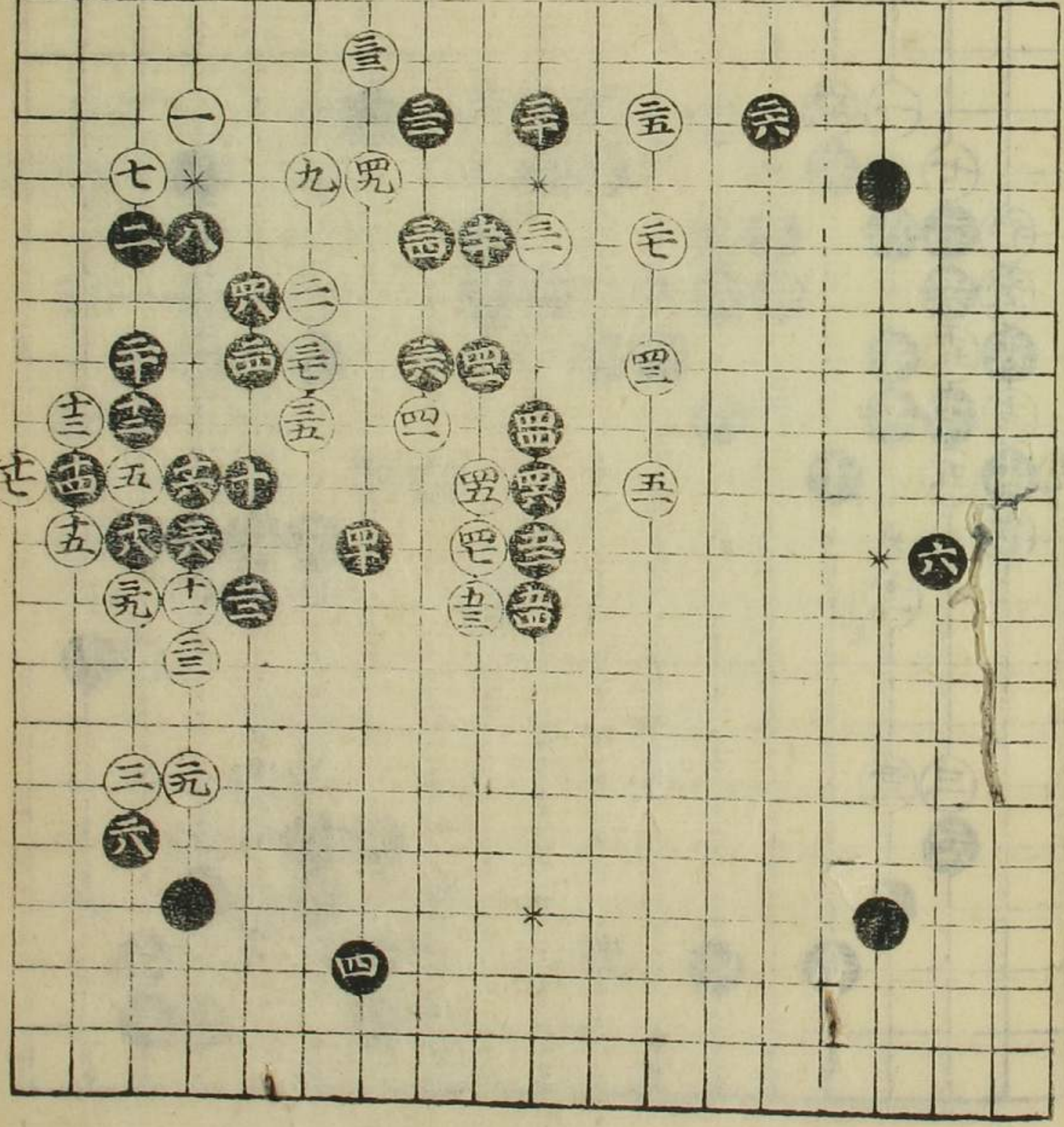


三目置之部

黒大位はあつちの
 白の三九二目次四九
 けりし押さるる常を
 五目石立ふて五十
 とのそきあつち筋
 吉六二目目々の時
 常八口下へてあ
 とも是も此のあつち
 控ぬぬをあつちし
 四十五八も筋あつち
 此の五活を死取也

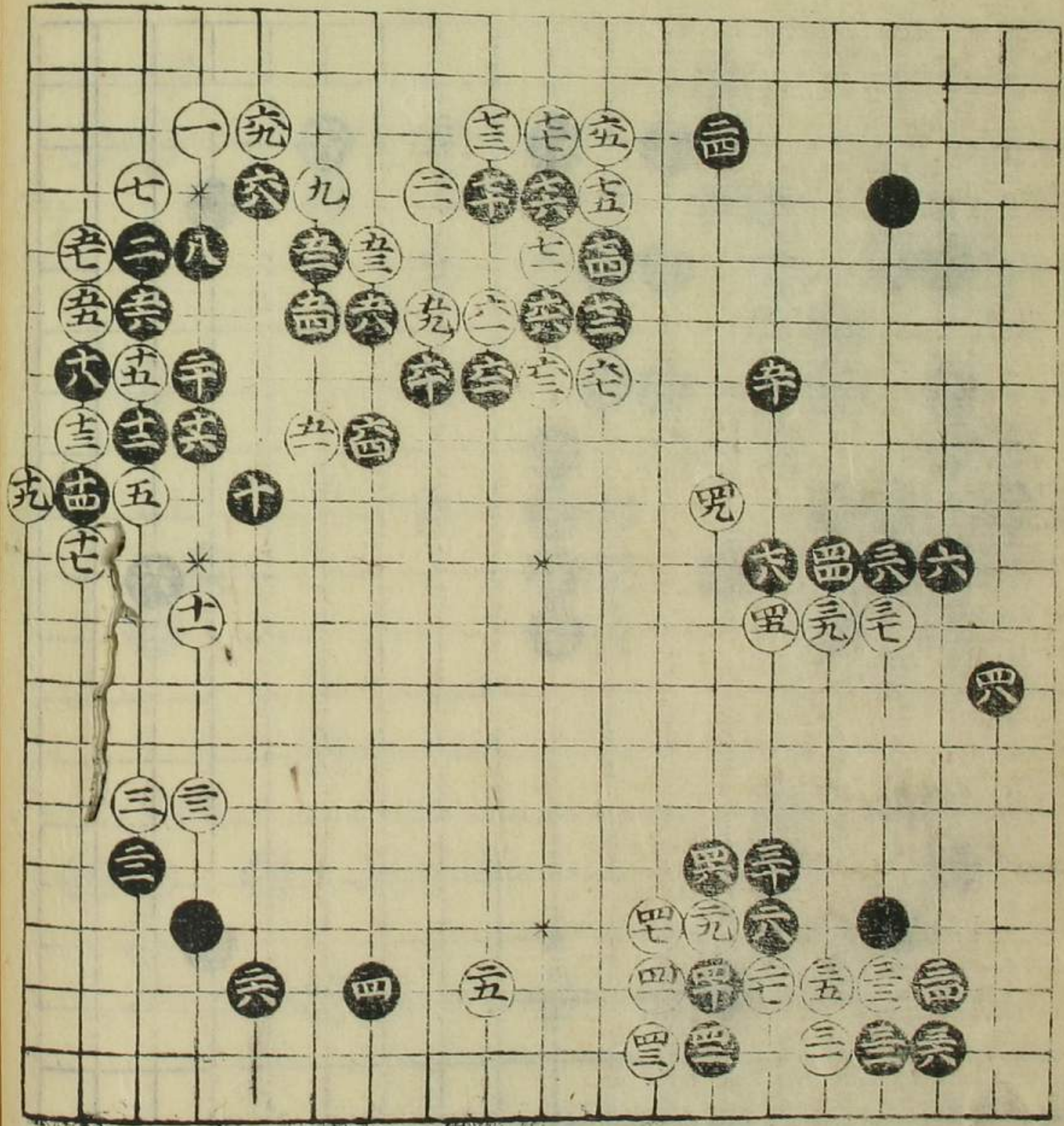


あつちあつちも黒匠
 白よりあつちあつち
 悪くあつちあつち黒
 大ふあつちあつちあつち
 乃あつちあつちあつち
 況ん
 丸 指

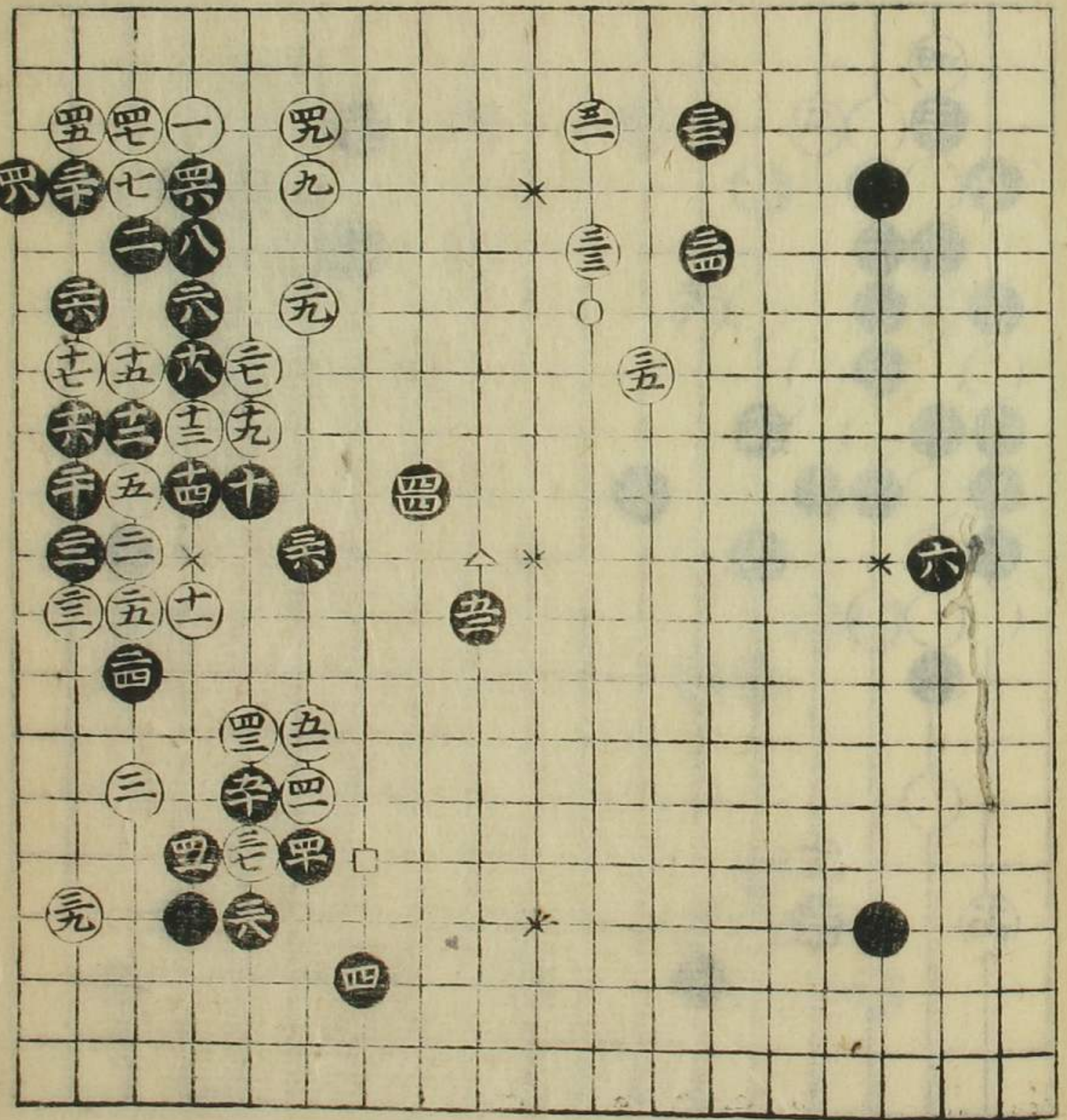


三目置之部

白十五と將くお八黒
 も堅くちうて若黒
 四十は切常子はあ
 しく思し流れてハ
 大ふ若七十とあ
 打七八くかて切流
 ちう若黒必勝の形
 二二若
 二四若



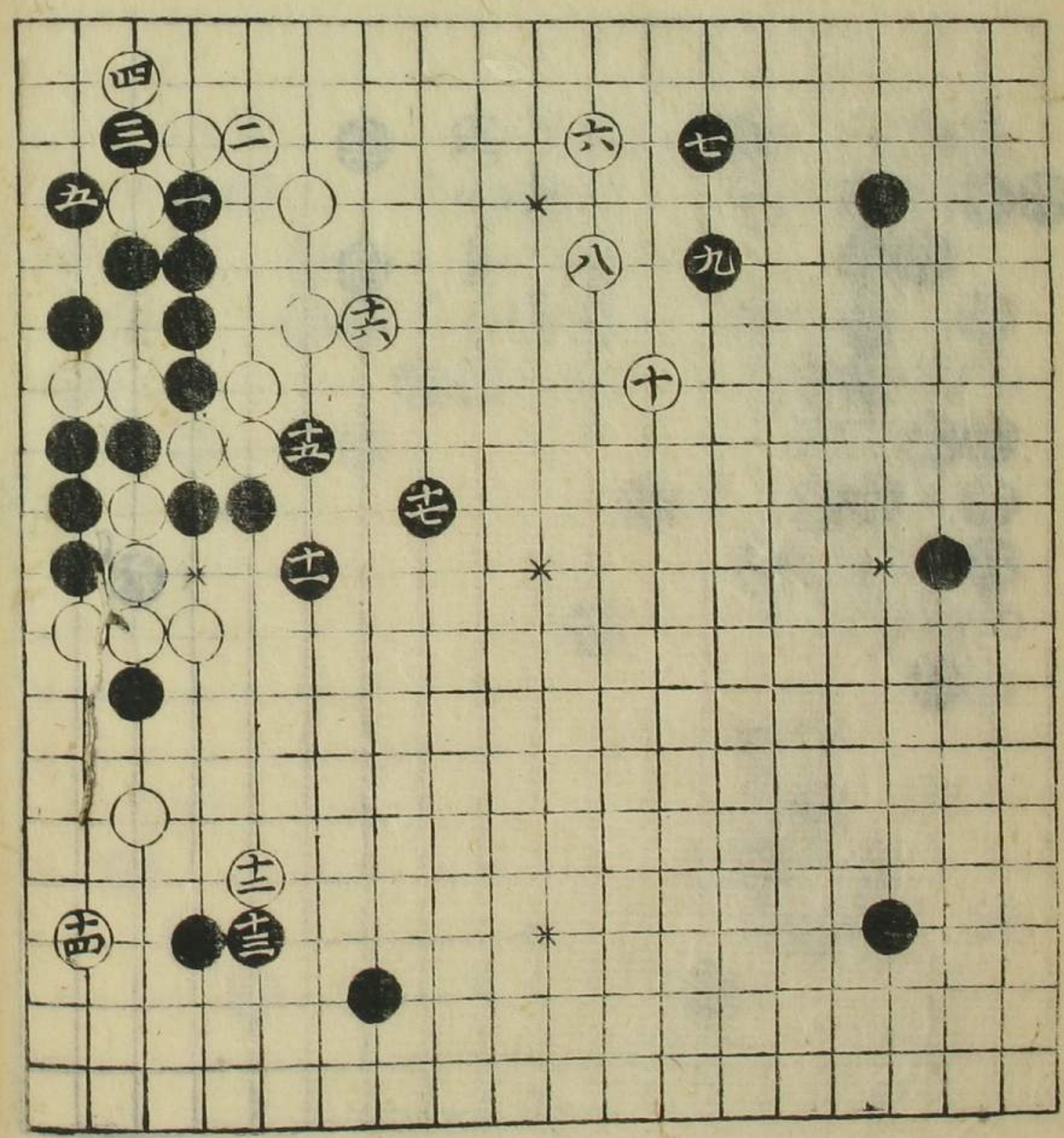
此石立為まぢやをれ共
 手次第を稽古の爲
 記を白三五はあま
 三七の石は打黒三八
 と書附口下二間飛
 小打八黒〇作八付て
 打ち考へんをし
 黒四一思し白よりぬ
 世うしてハ飛思し
 白より△下の角へ打
 逆向あり四十と打
 此取を思し稽古
 此為記を振替次
 ちうて



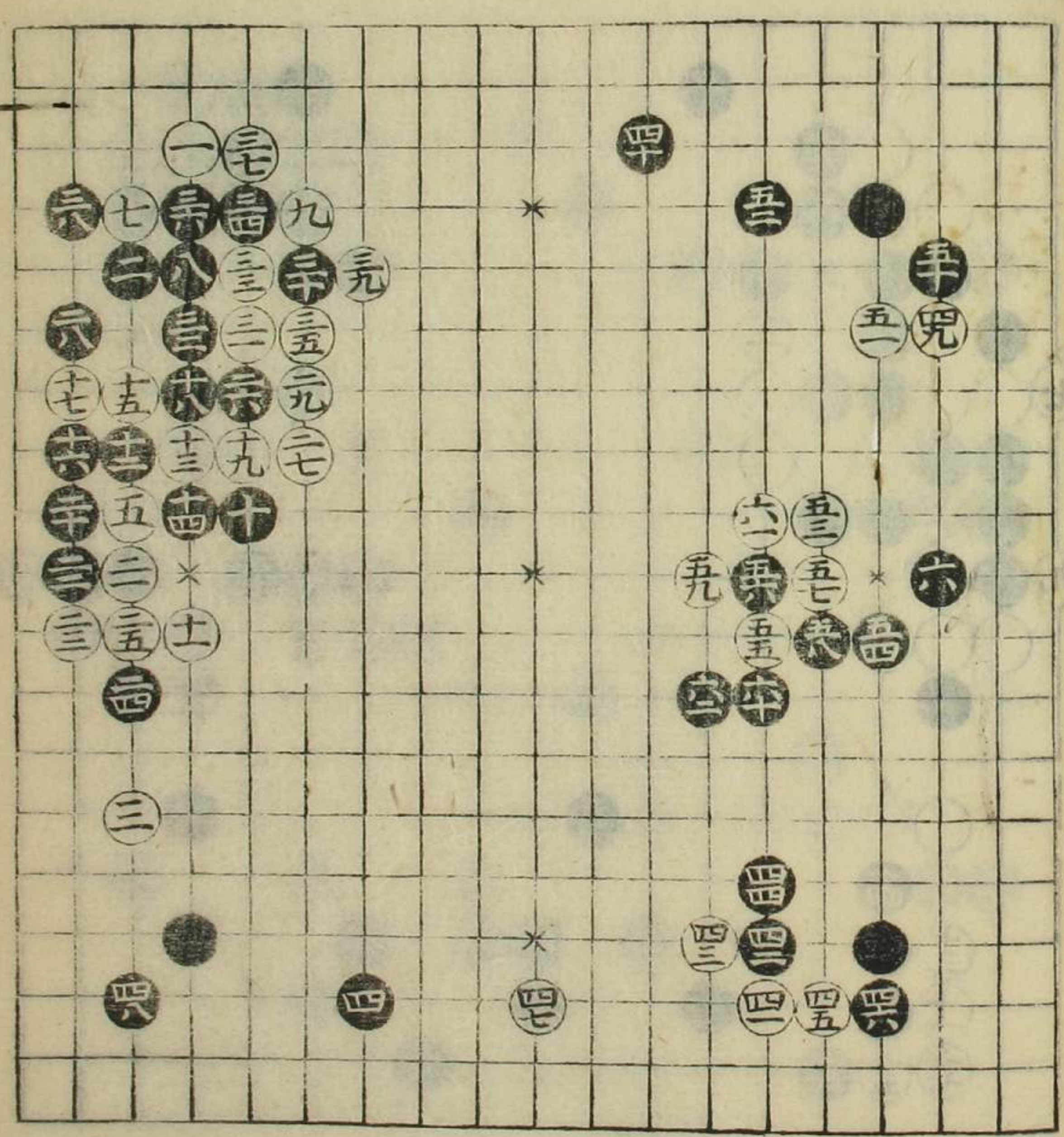
三目置之部

五

前墨黒三十枚より
 移り
 ぬき十五と定へるを
 十七と抄方を此の
 趣向を二の向はれ
 るに抄方也 振替
 次不記

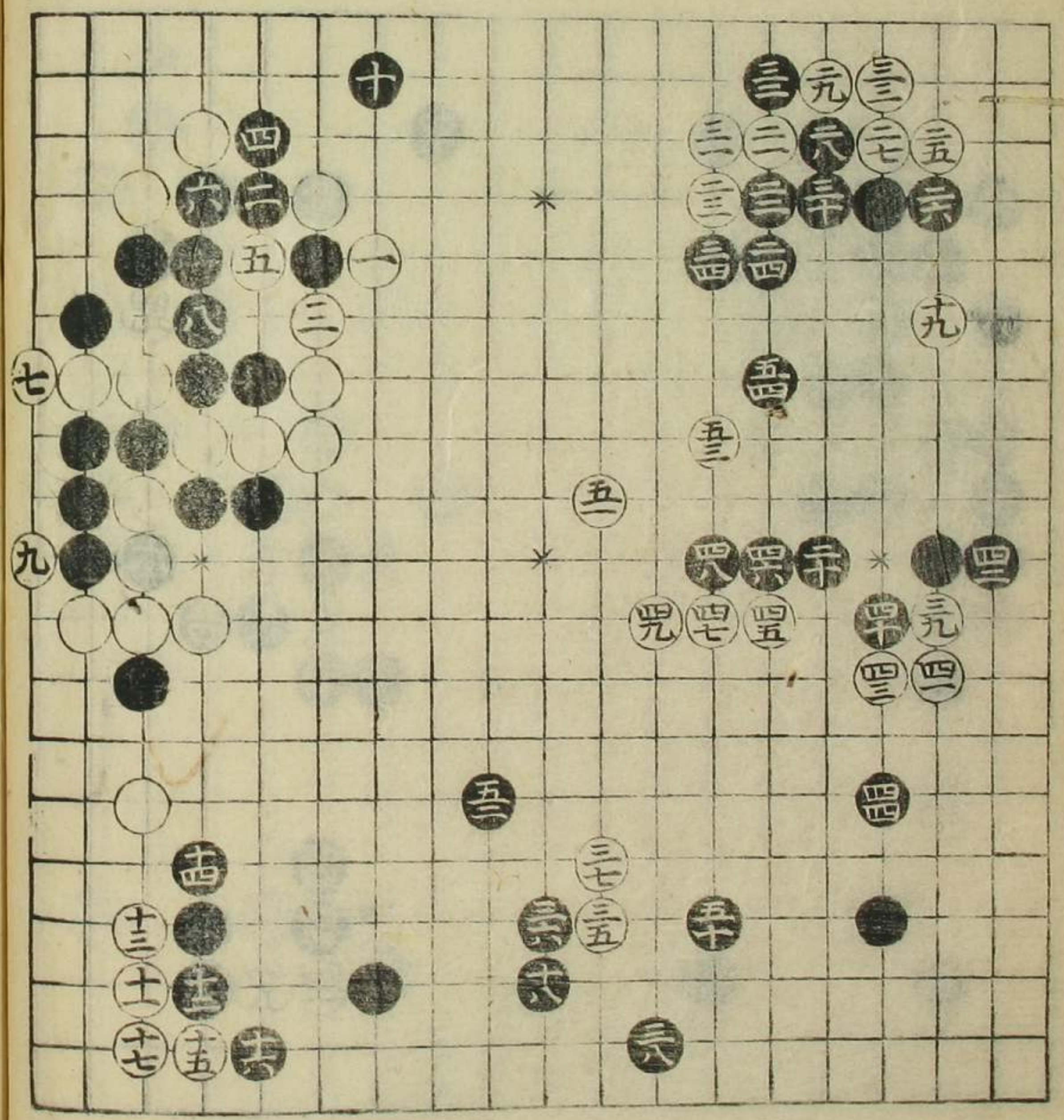


是ハ白此方急なる
 趣向に黒抄す一四八
 三の石付く打多能
 なるも一付四八乃
 更白より抄れ悪き
 左ぬき尖抄之五六
 越て抄一目取也てハ
 ぬ何れも一白冷
 なく此石を大よ者
 振替次不記也

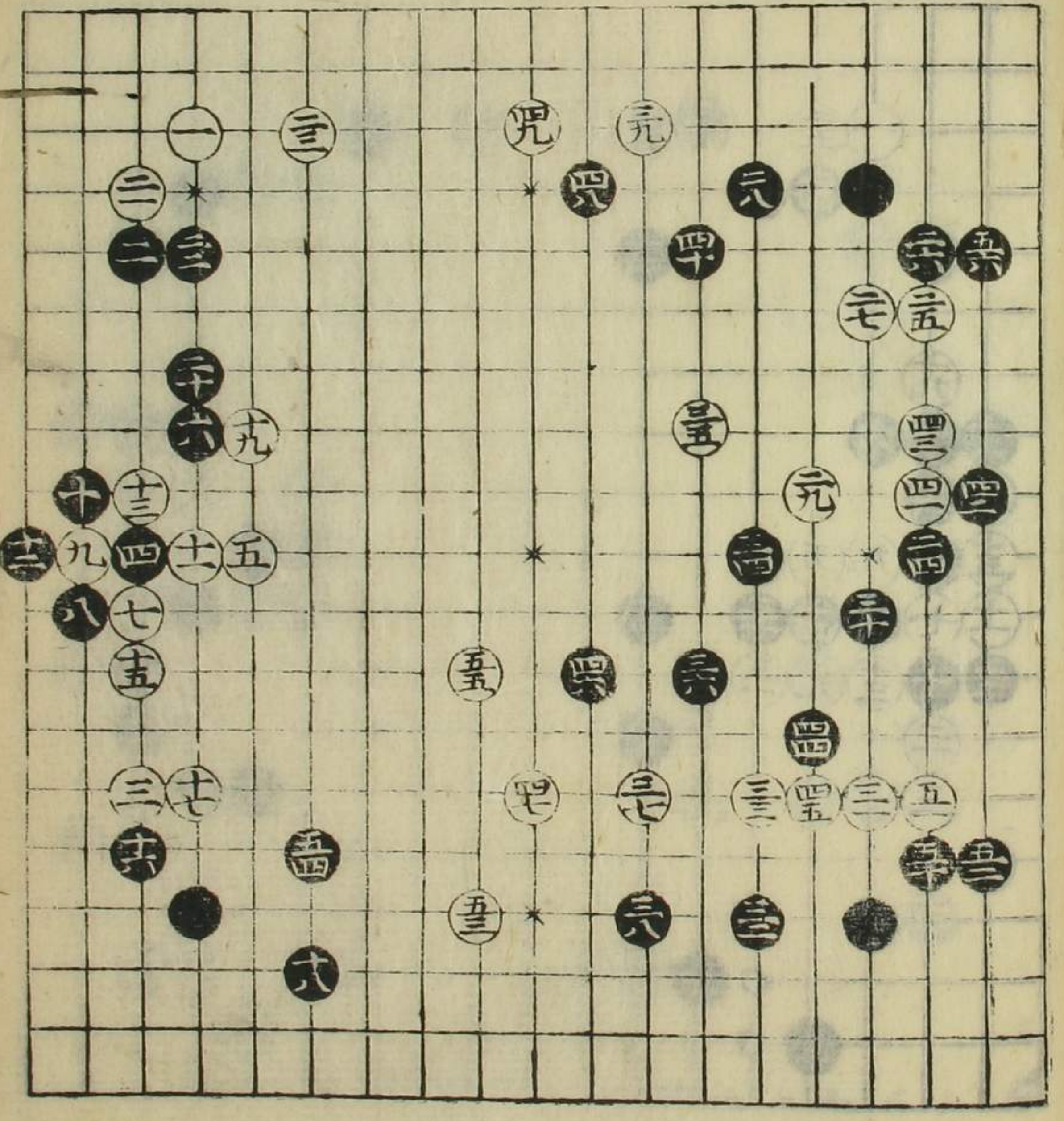


三目置之部

花白三十一の
 此石立道年方
 方大丁若二十
 二六くお手
 なるくハ一向
 四四く打中
 黒迷向あり
 十吉

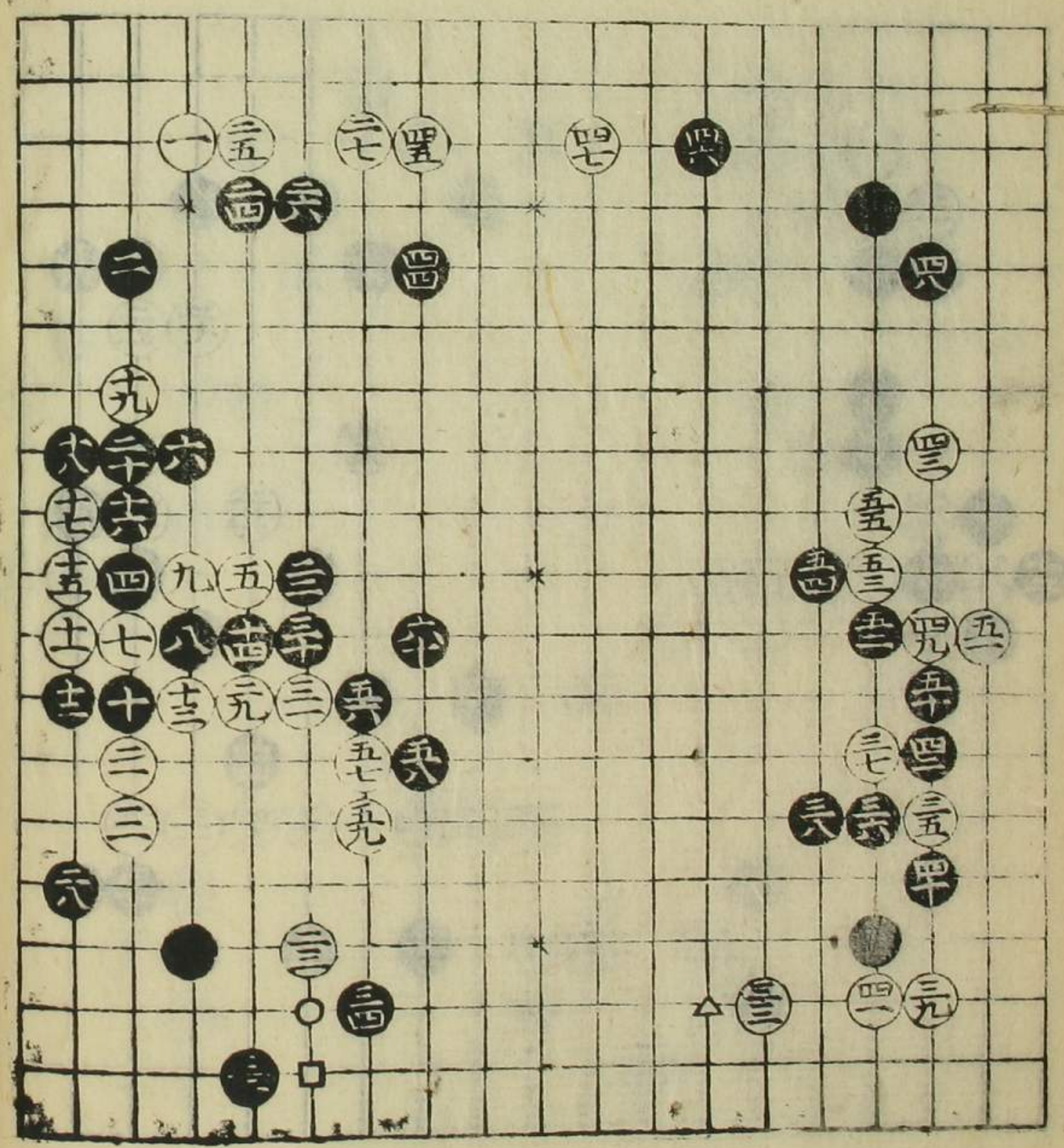


黒三四五六
 五二く打五
 五四く一
 以石立道
 振替次
 十六有
 十八有
 吉 拵

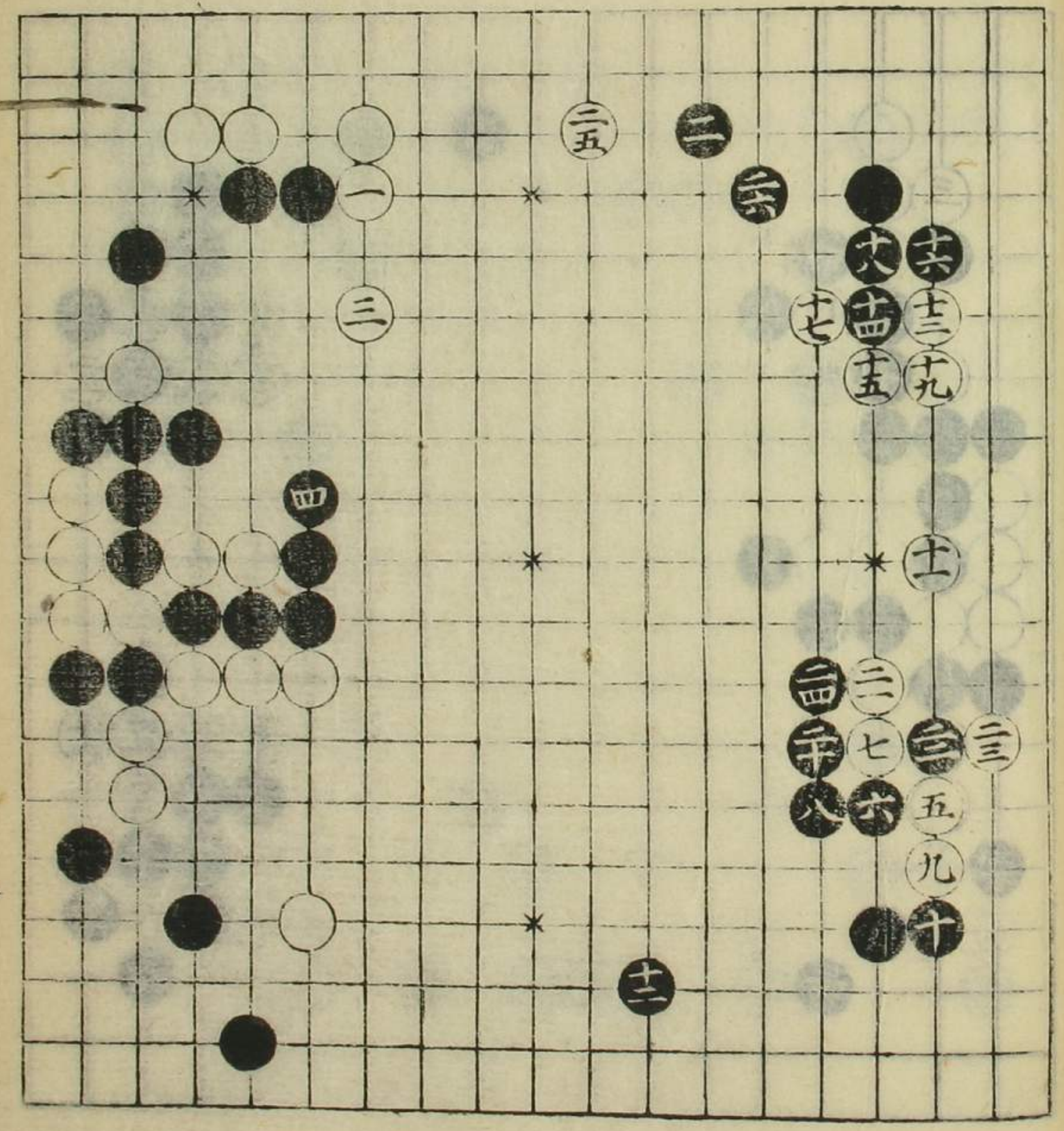


三日置之部

二四比一同一様で打も
 有ぬ是もよくも黒者
 三三の白もあて三三付
 打八口下打白〇下へ
 次打黒△下へ大桂を
 打打るり四打四六と
 打四八しぬ此角をさ
 うしてハ筋を打
 石互位大よと
 振勢次小死を



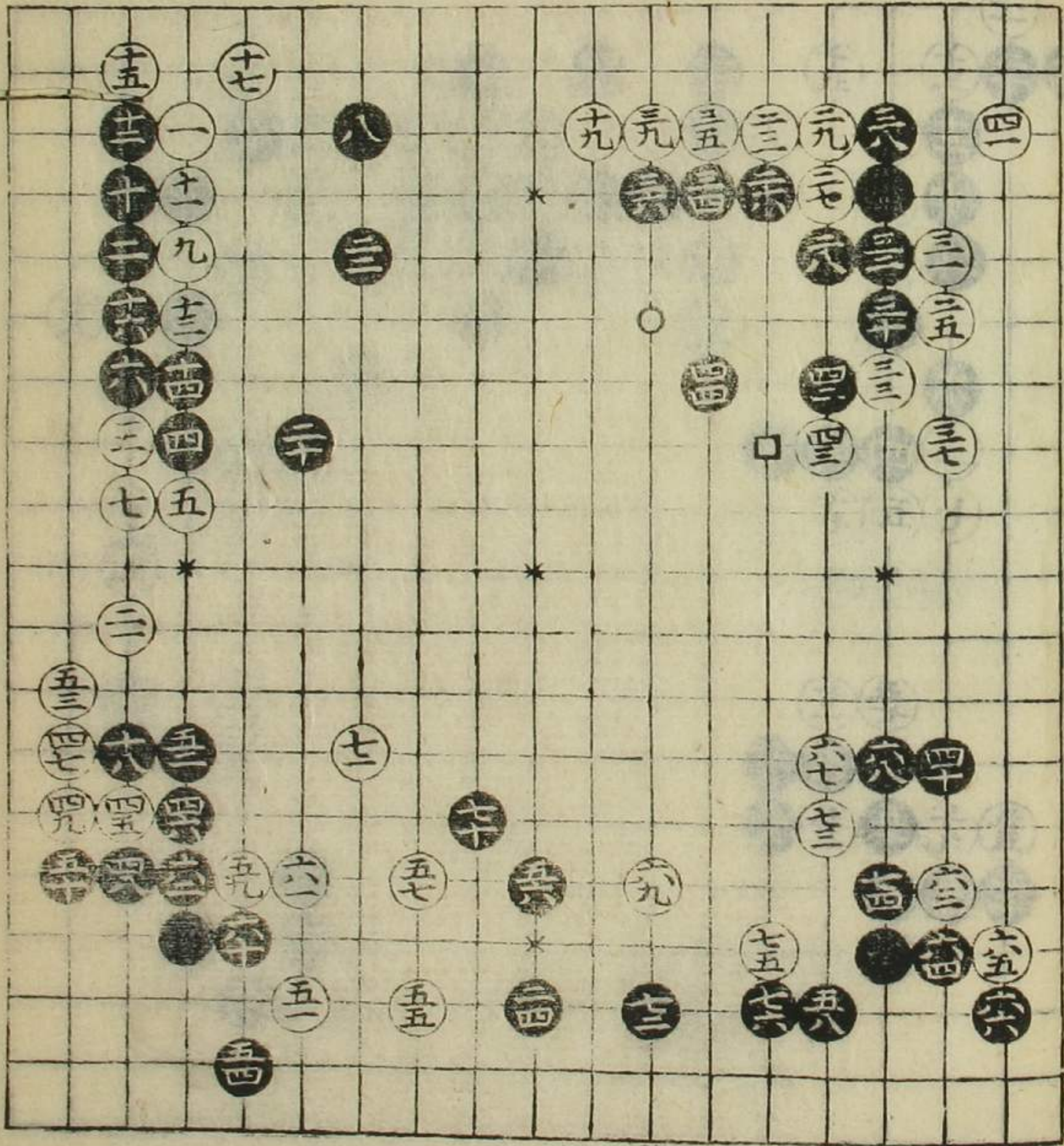
振勢白三三比もより
 勢も
 世振勢も黒様より
 二二と比之切白三三とぬ
 是打八押之常にも
 筋之ハ筋を打し振
 勢り次もあつた



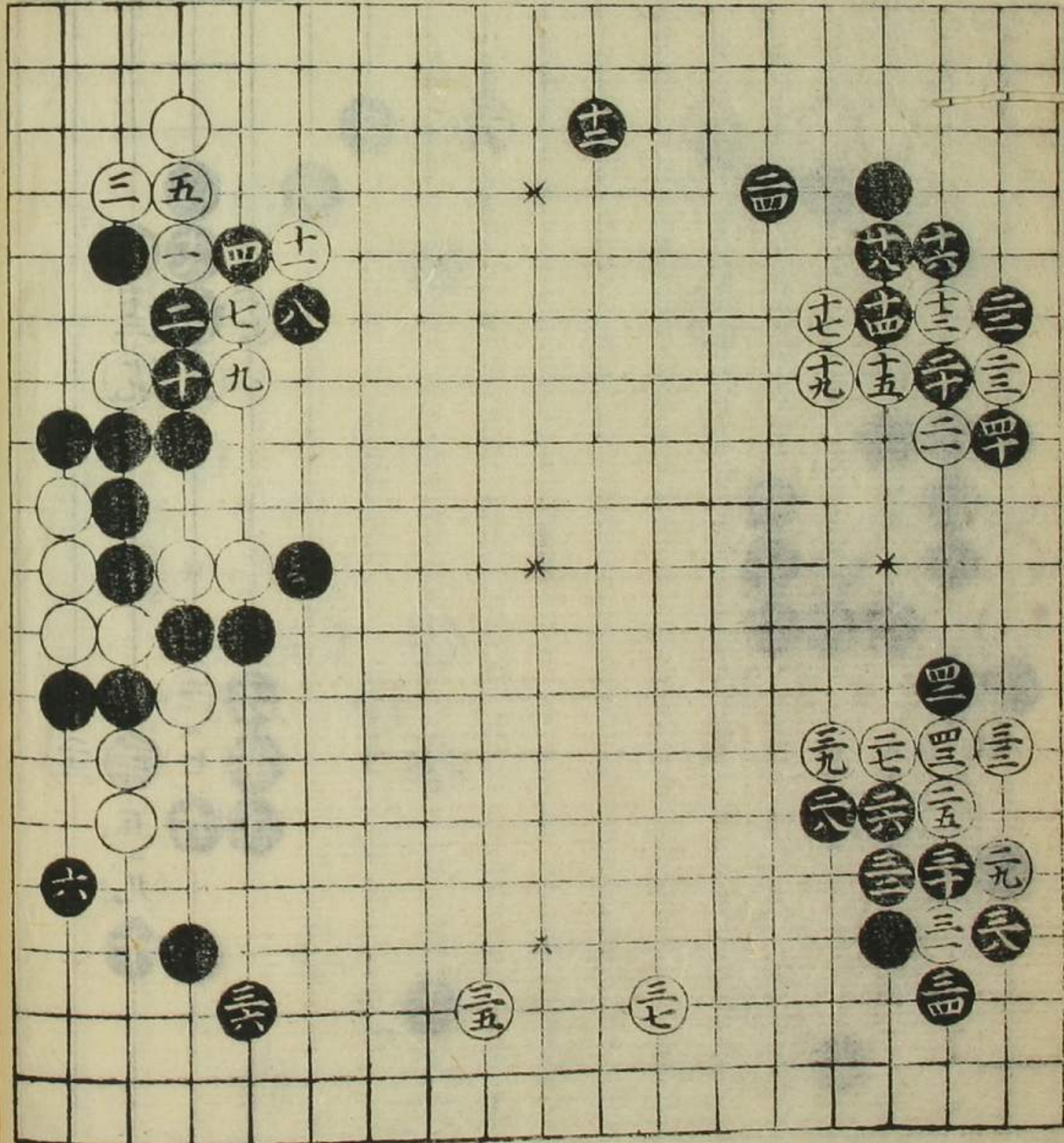
三目置之部

白十九と打八ぬ廿二と
 打者二二と打二三と
 打せ二四と大位は打
 も吉心得て四四佳
 □下(も)久し白切時
 一目換あて○下(かけ
 次子打大か存まは雁
 の肘を白十九の玉同飛
 打て五平れを六八切せ
 悪逆如白堅取切せ
 も存考見し黒を
 雁也皆次第死之
 五四吉

三目置之部

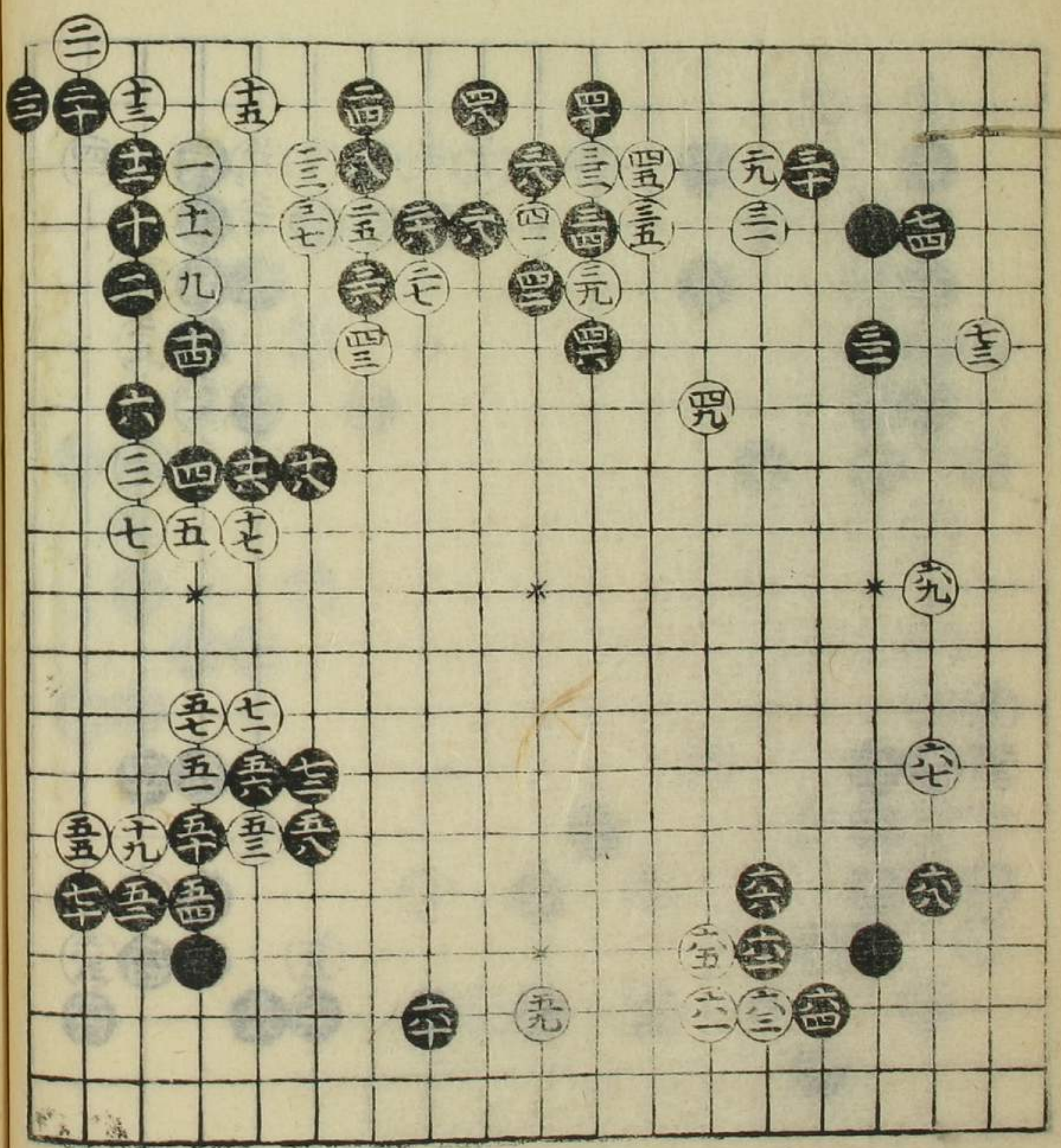


白三三と打三三と
 公の玉取たすも大の
 外より別てよし黒
 三六白堅亦もぬえ
 少存此も疎あてハ
 黒初後も八切を
 必後の二つともあり
 四一 一目取
 留 初とる

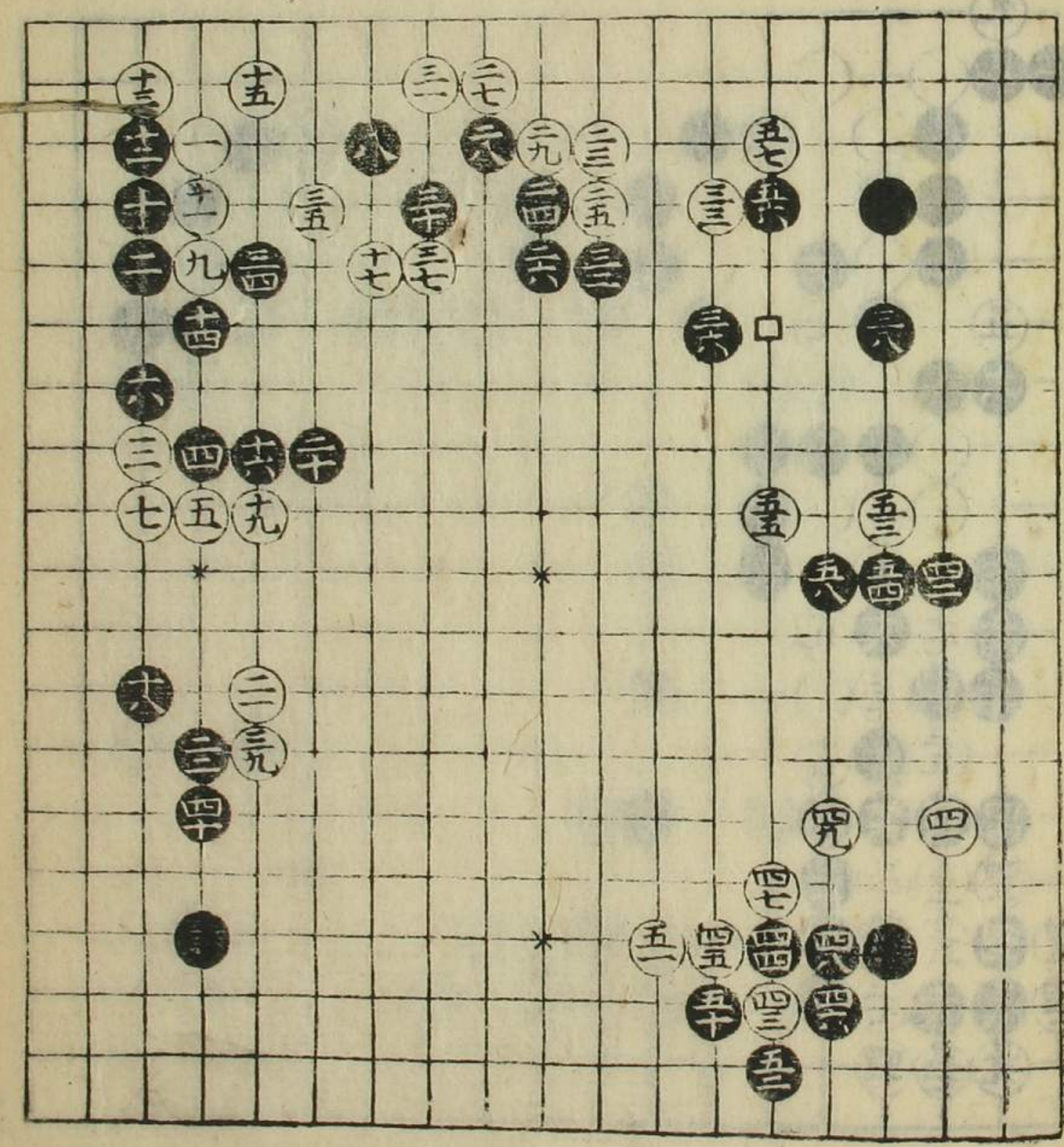


自十七押て勢のよく
十九(十八二十とたの
白をせざるあり三四は
越向面白し考見をし
黒六二の時白六五(打ハ
六三の外を押へくもし
此石を治るべき形く

四十去
七十去
七十四去
却る
却る

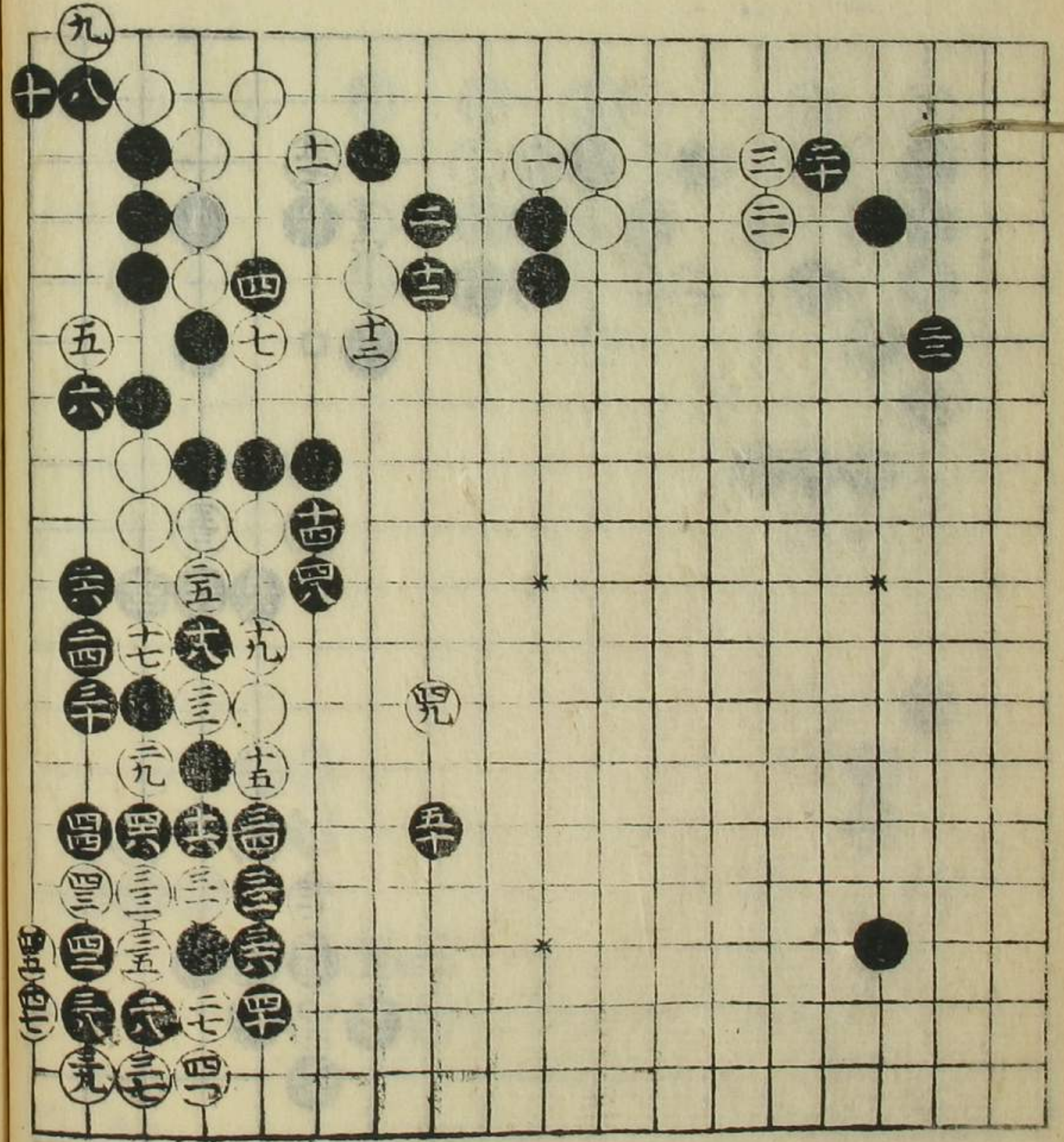


自十三と打附十四定石
あり黒十八の勢よく
三八此不若四二三六あり
おきて極大場五六と
併へ五七と白もこの
時五八若口下へ付て切
るも底五六とぬ此歩並
あり此石五黒六より若
かり次は去るに

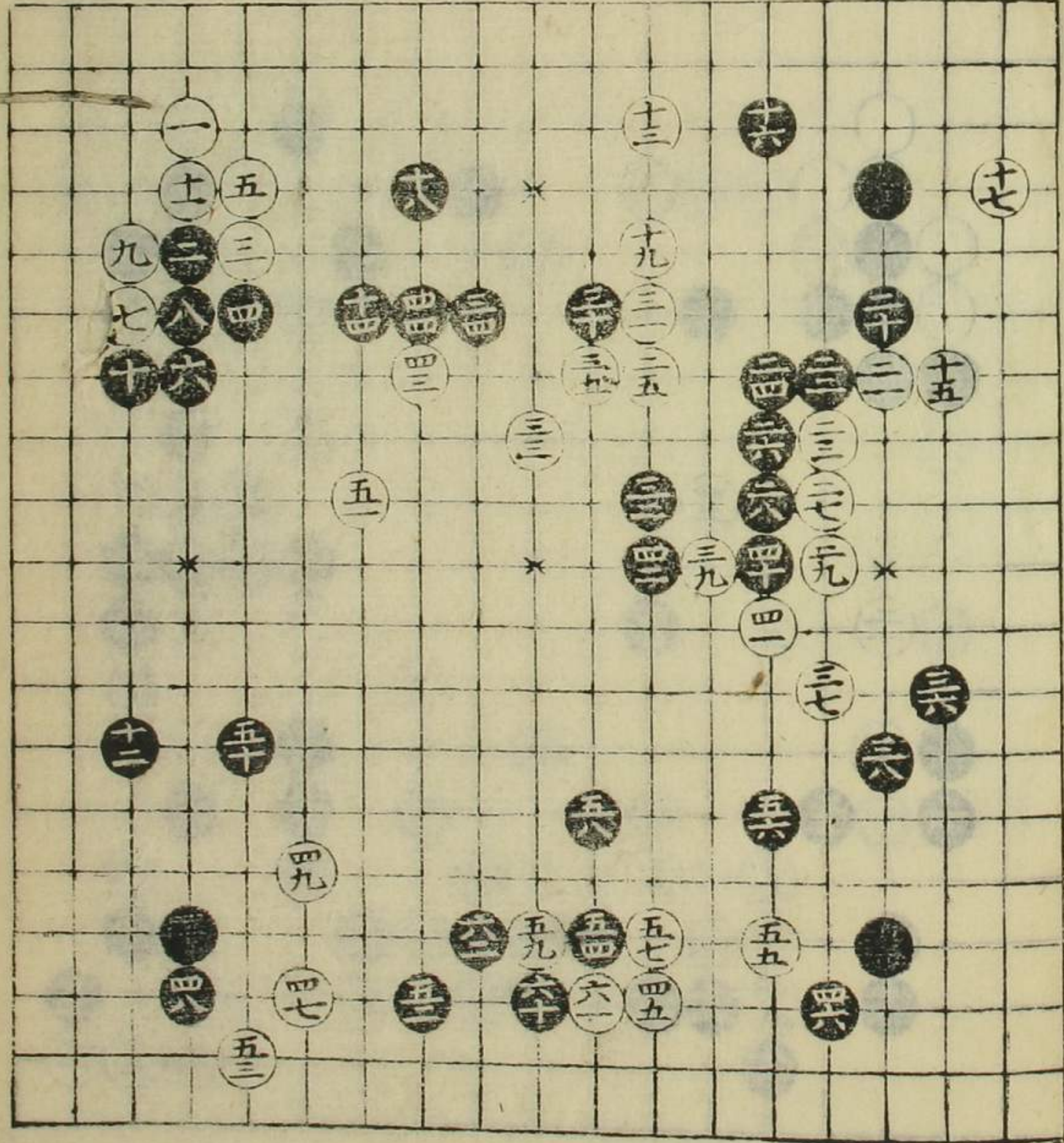


三日置之部

前星白二十七は
 勢
 ぬ是種と振勢白
 打てと黒は
 白悪しん均足
 治りて取

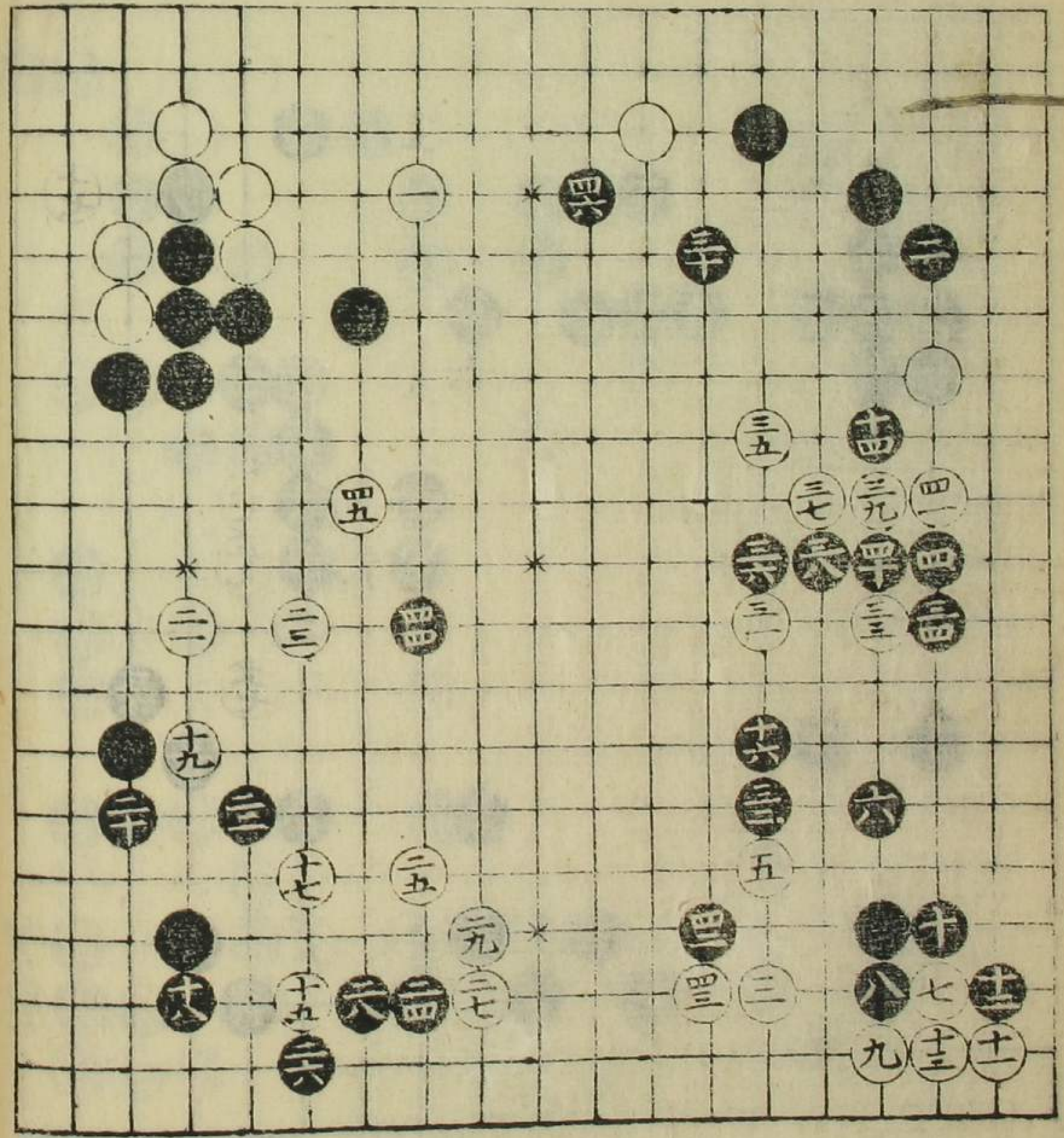


白十七の附十八とぬ是
 打白十九二十と二間飛
 と後回しとさし能く
 んゆ是し五四の振向
 者ぬ此ありてハ必捕
 け形之振勢之次は凡
 十四右
 三十六右

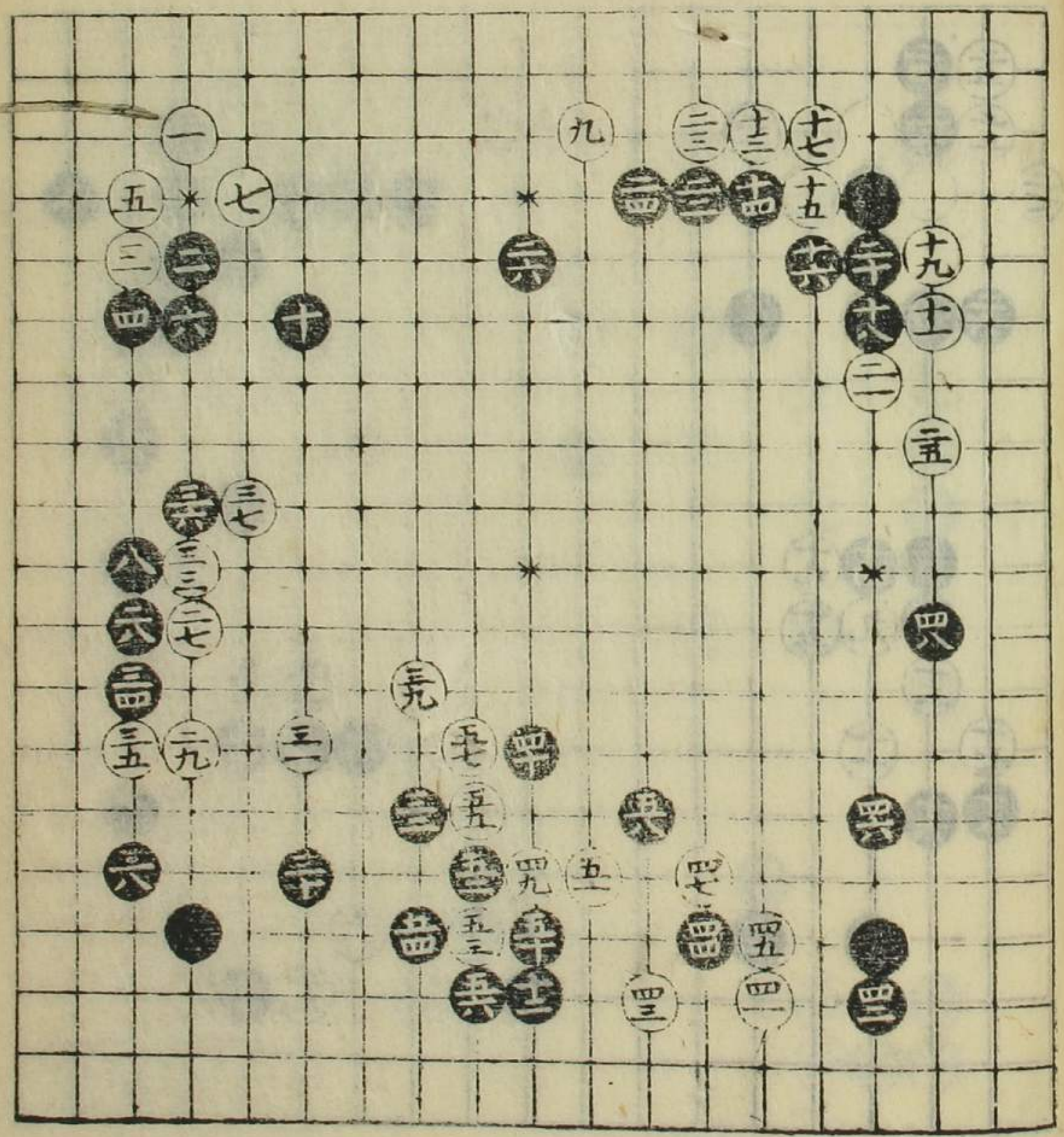


三目置之部

花星白十七はあり
 守る
 白と丸は打ハ二し
 守る者白三の時四と
 狭む銀向者五と白
 打さる時ハ三以上ハ付
 て打は漢之丸は成
 てハ給なき石立なり
 六石
 十六石
 二十二石
 三十石
 三十六石
 四十四石
 四十六石

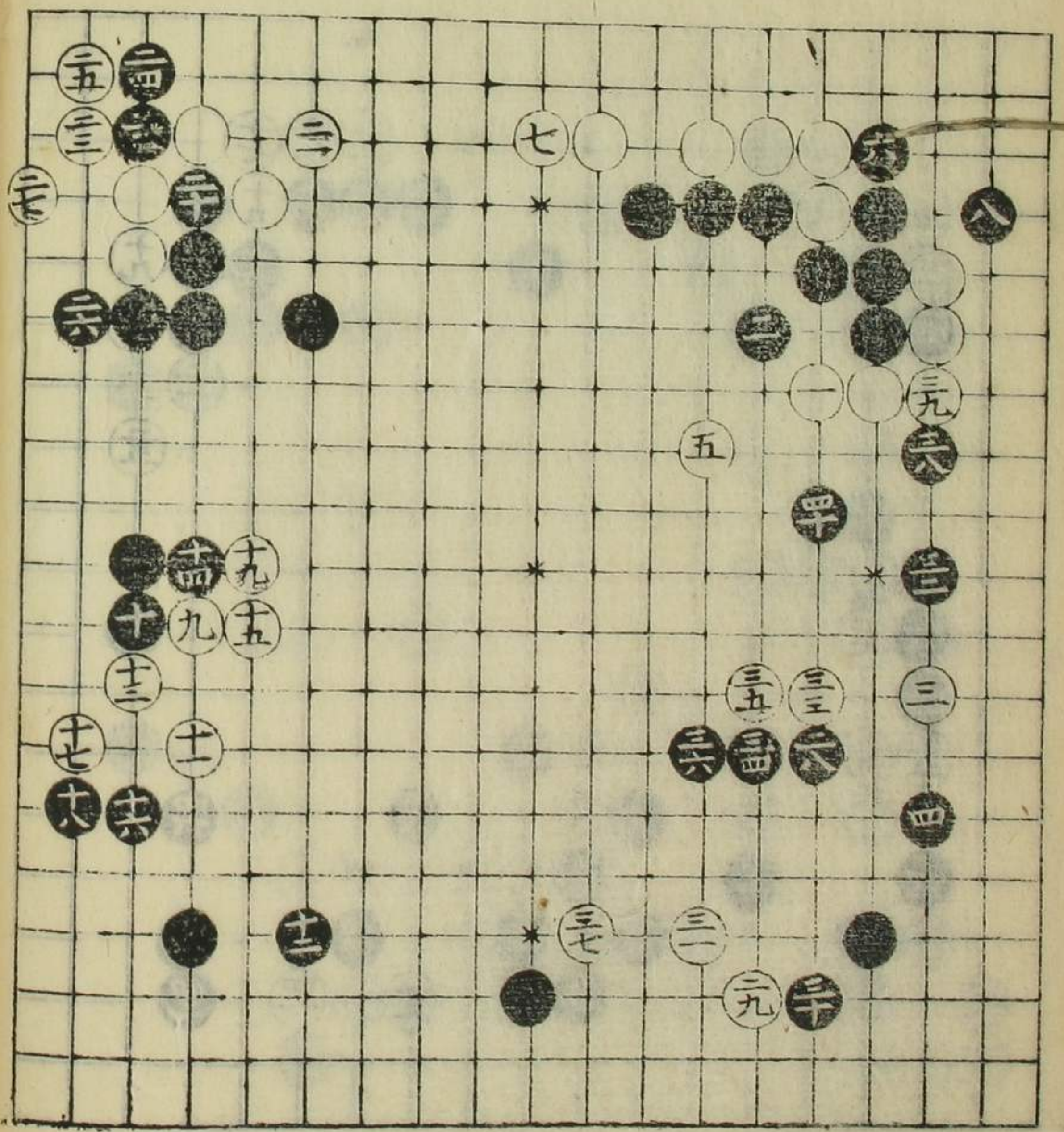


白九の時十は先する
 十四の時十振大場と
 知るし十二と大位打
 十三と打さる此成ても
 右考足し十四は此考
 丸は打者四と打四六と
 打銀向者考足し下給
 なき石立あり打り
 次は記を
 十二石
 二十六石
 四十石

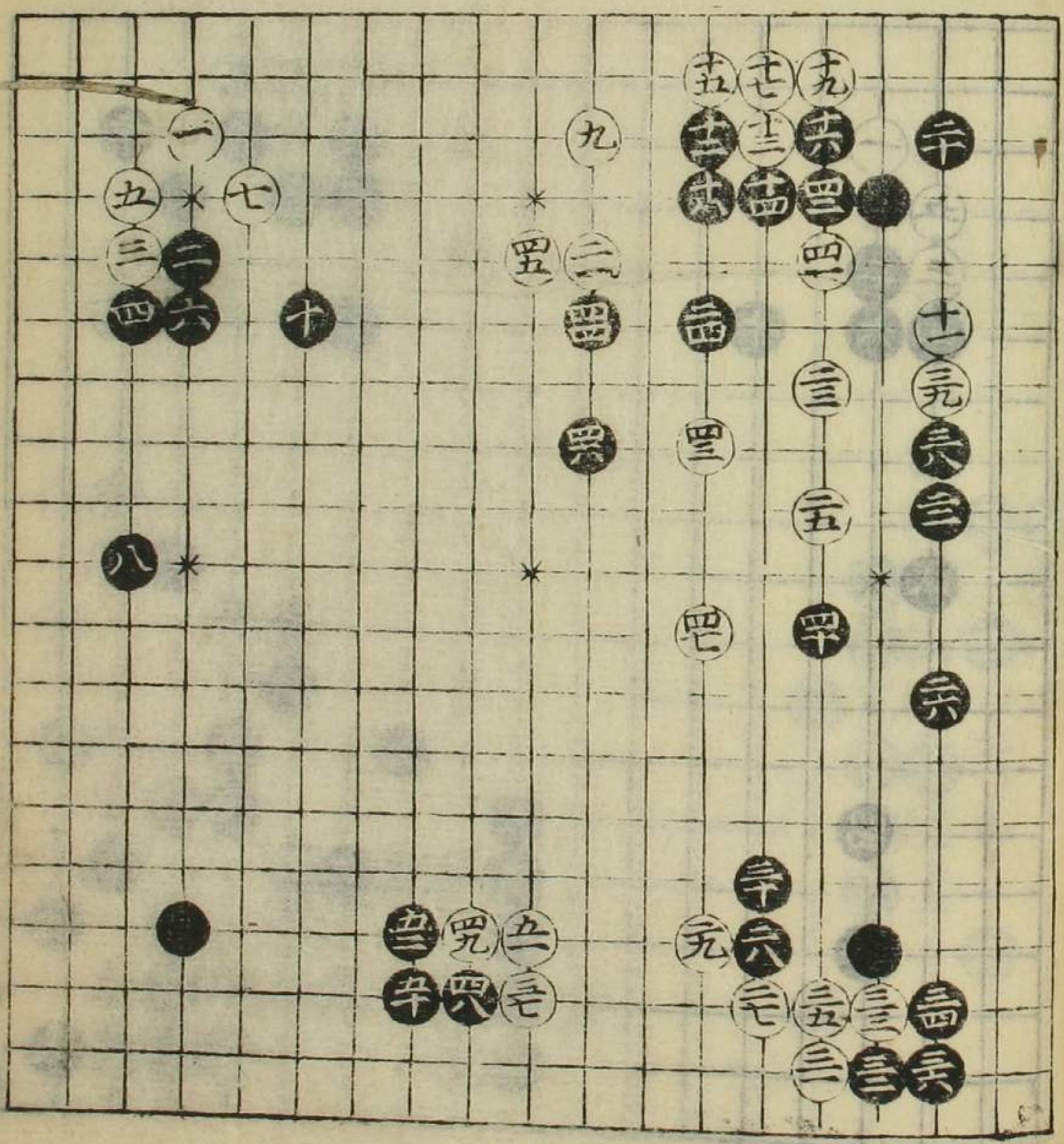


三目置之部

米壹白三五のより
 移る。
 白とぬきおこせ形
 打負黒二十と打後向
 同くも子能くお込打
 せし後子能く二八打
 白二九と打をぬき成
 く白打きも後向
 らゆ人下本指の取也
 移り決すゝゝす

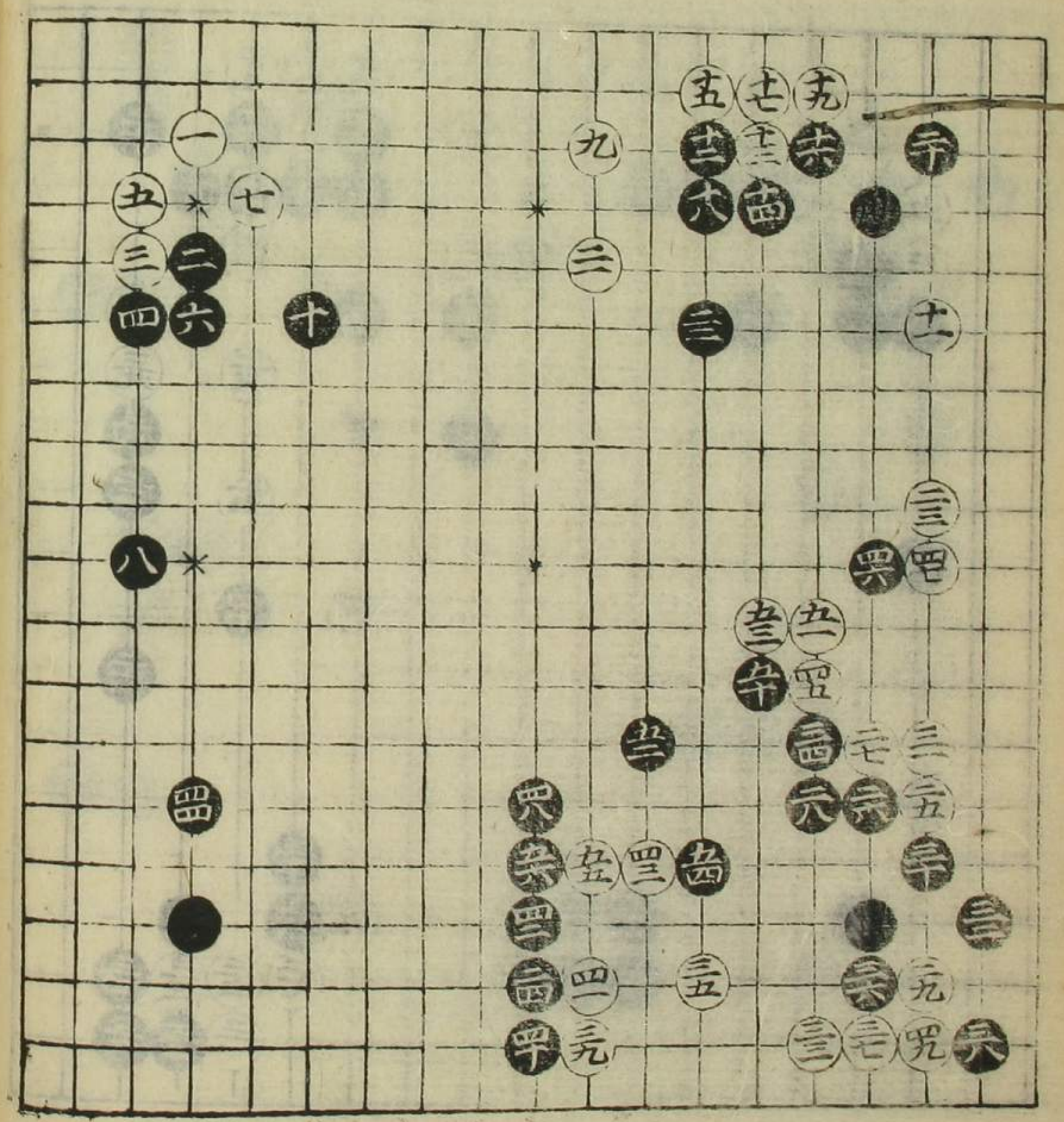


黒十二と打ぬきあり
 ても右常は有り也
 右移る古記之論なき
 形之振移次記之
 三八右
 四十右
 四八右

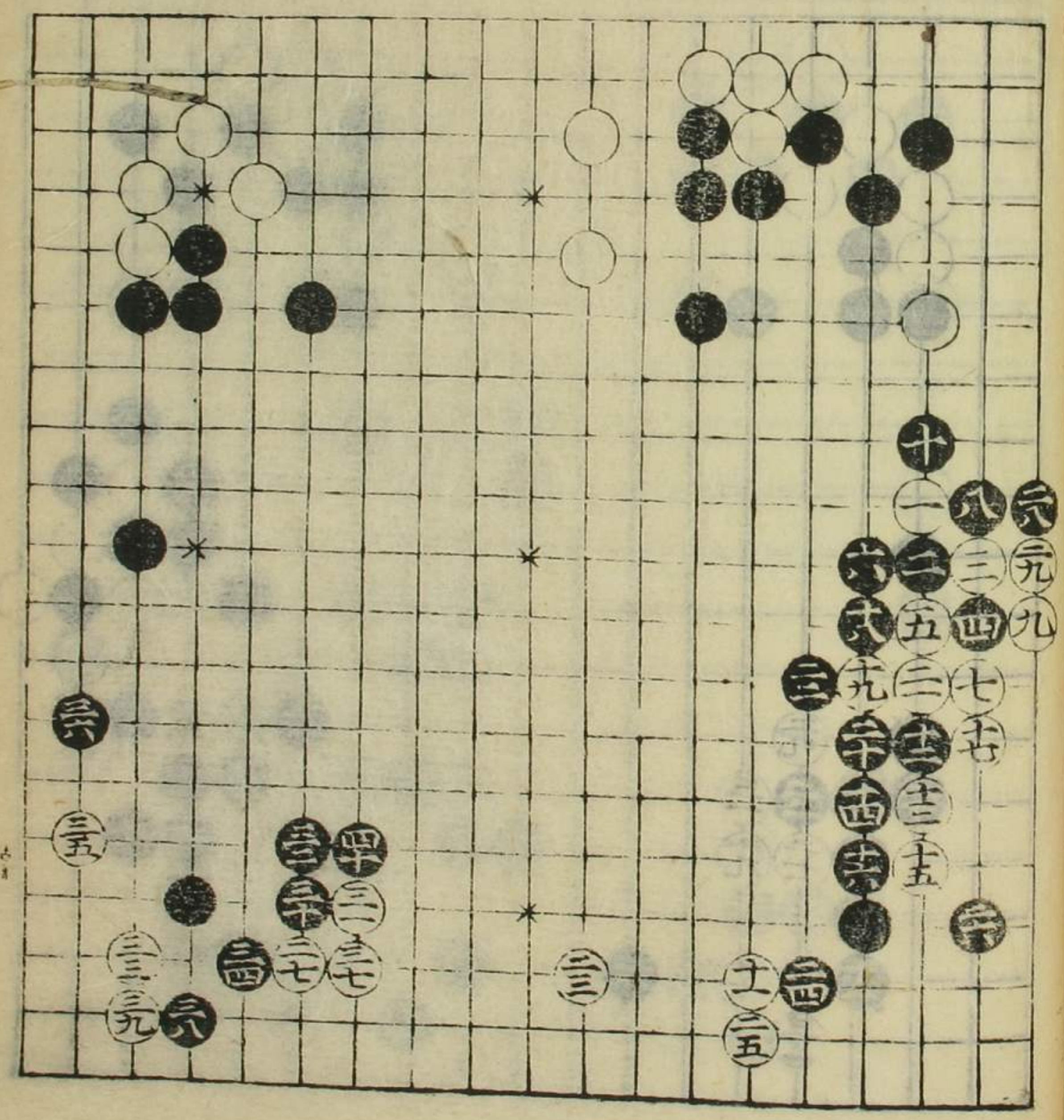


三目置之部

二二しぬおても右
 二四等ふする大場也
 四六しお並四八しお
 手後者考見也
 白五三の時將く五四
 片角大に在時石立
 難也
 振替次小記之
 四四吉

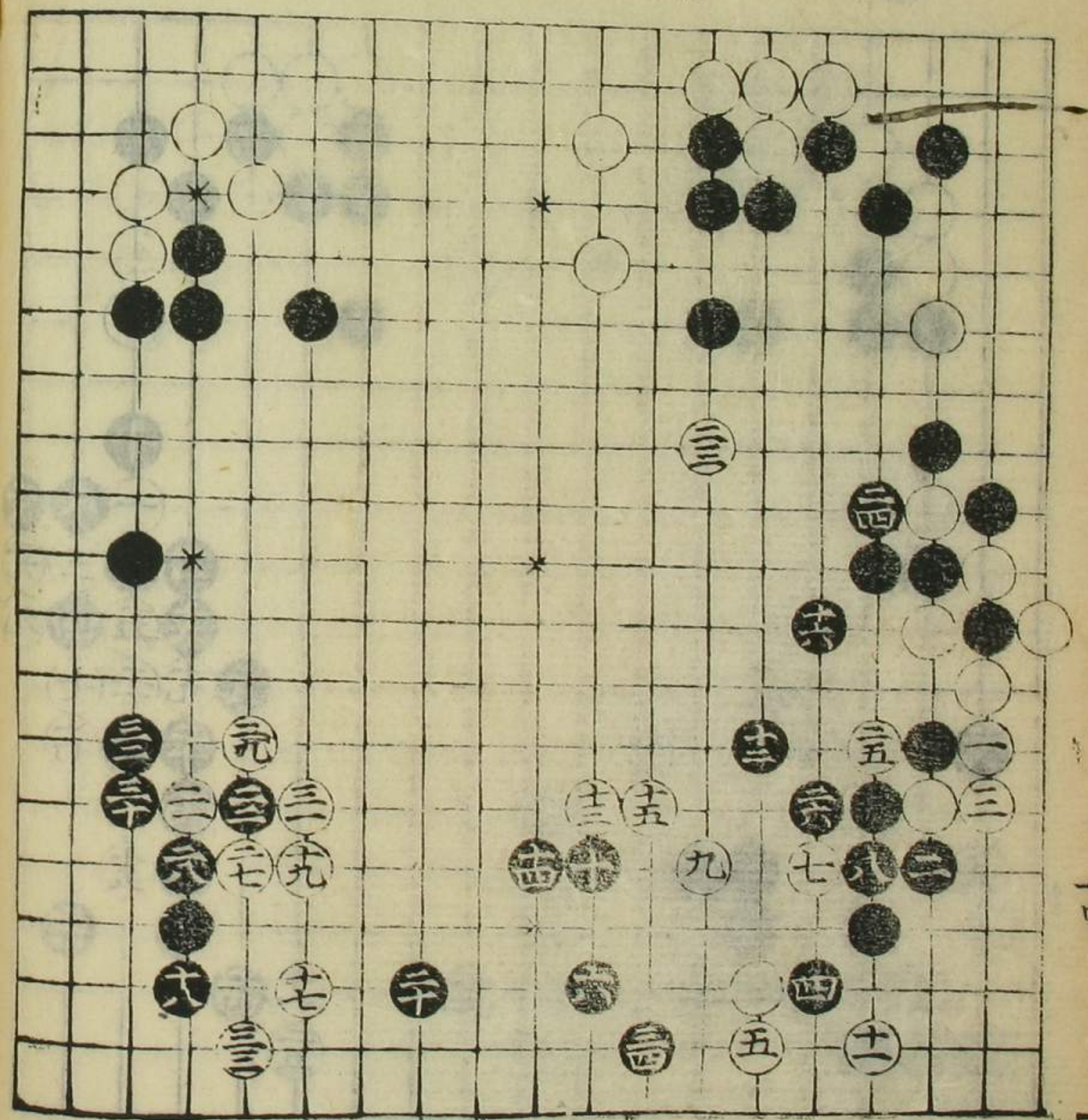


前並二四し手より
 勢も
 二しぬは清くお勢も
 ても右黒四の頭を
 大切の外し知し常
 に五しぬの免す人
 可し以
 振替次小記之
 三六吉



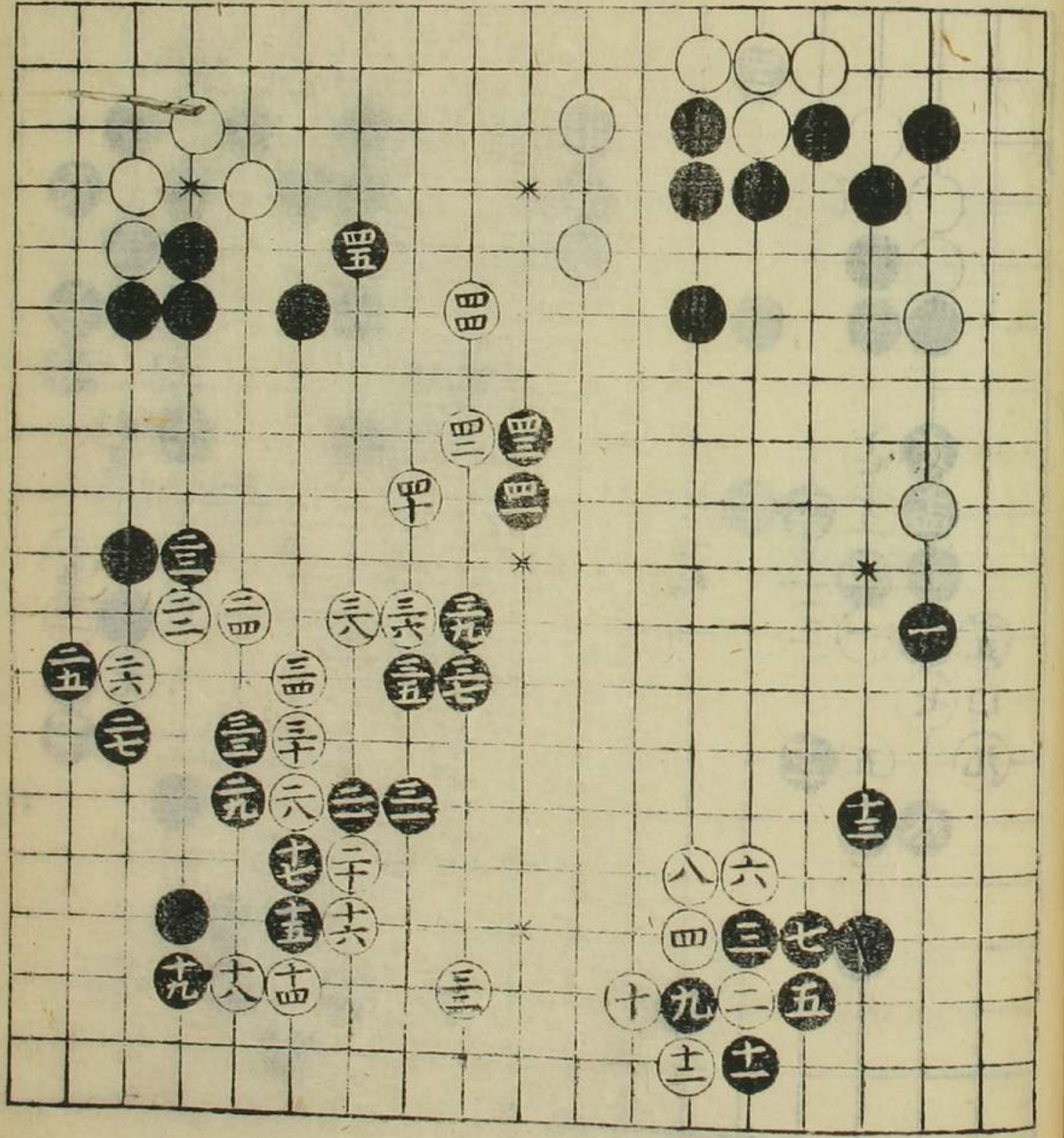
三目置之部

若星白十五打
 勢
 白と將く打黒も
 此は打廻打者十八
 と此は將く打十九
 と飛せ二十と打
 勢向者此石五黒
 堅く勢外
 勢り次は死々



本星黒三四打
 勢

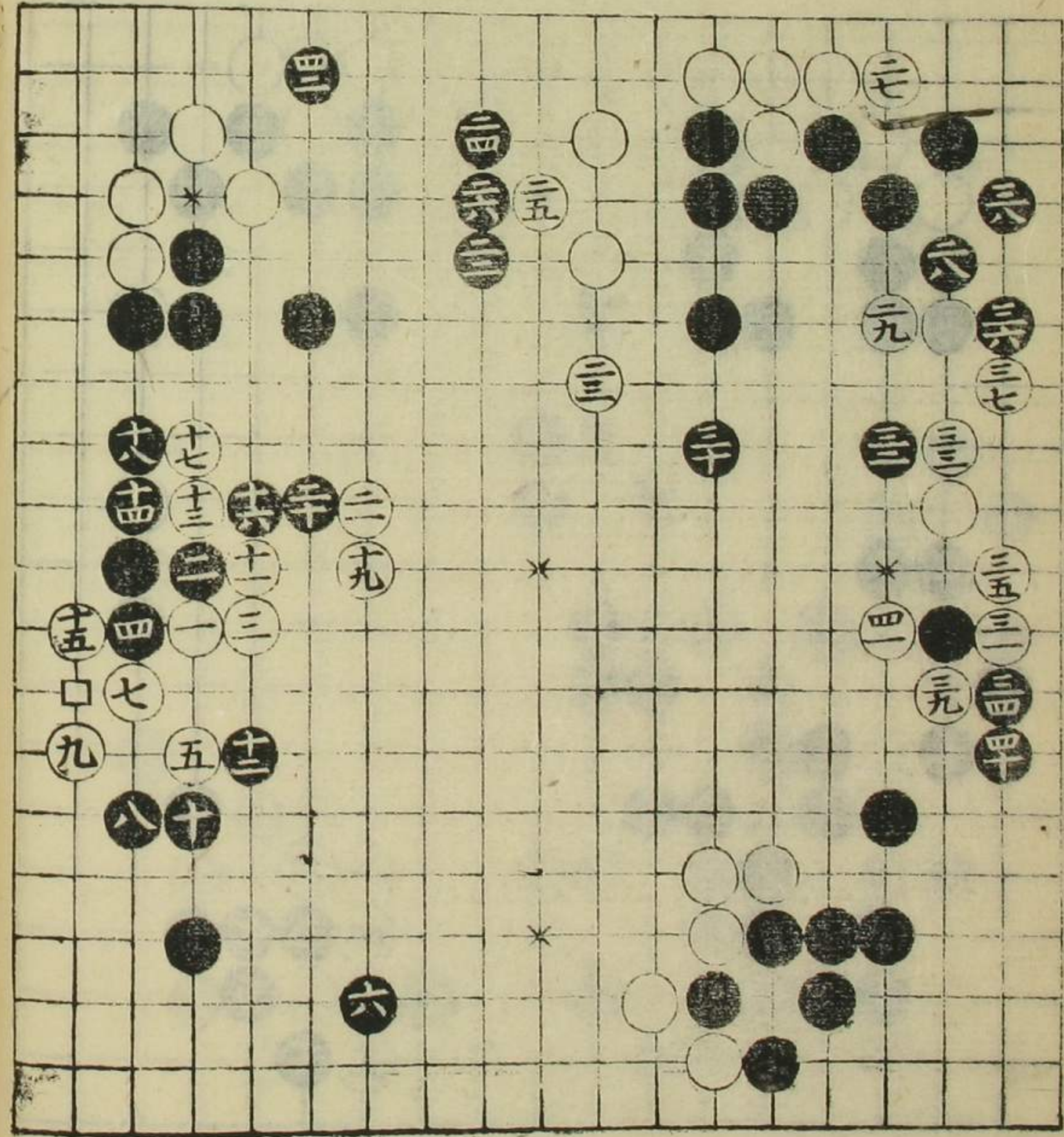
一と九打打も一
 二八の取切せても如
 是中を押付四五を
 折八たは者必傍の
 飛之勢り次は記也
 十五打
 十八打



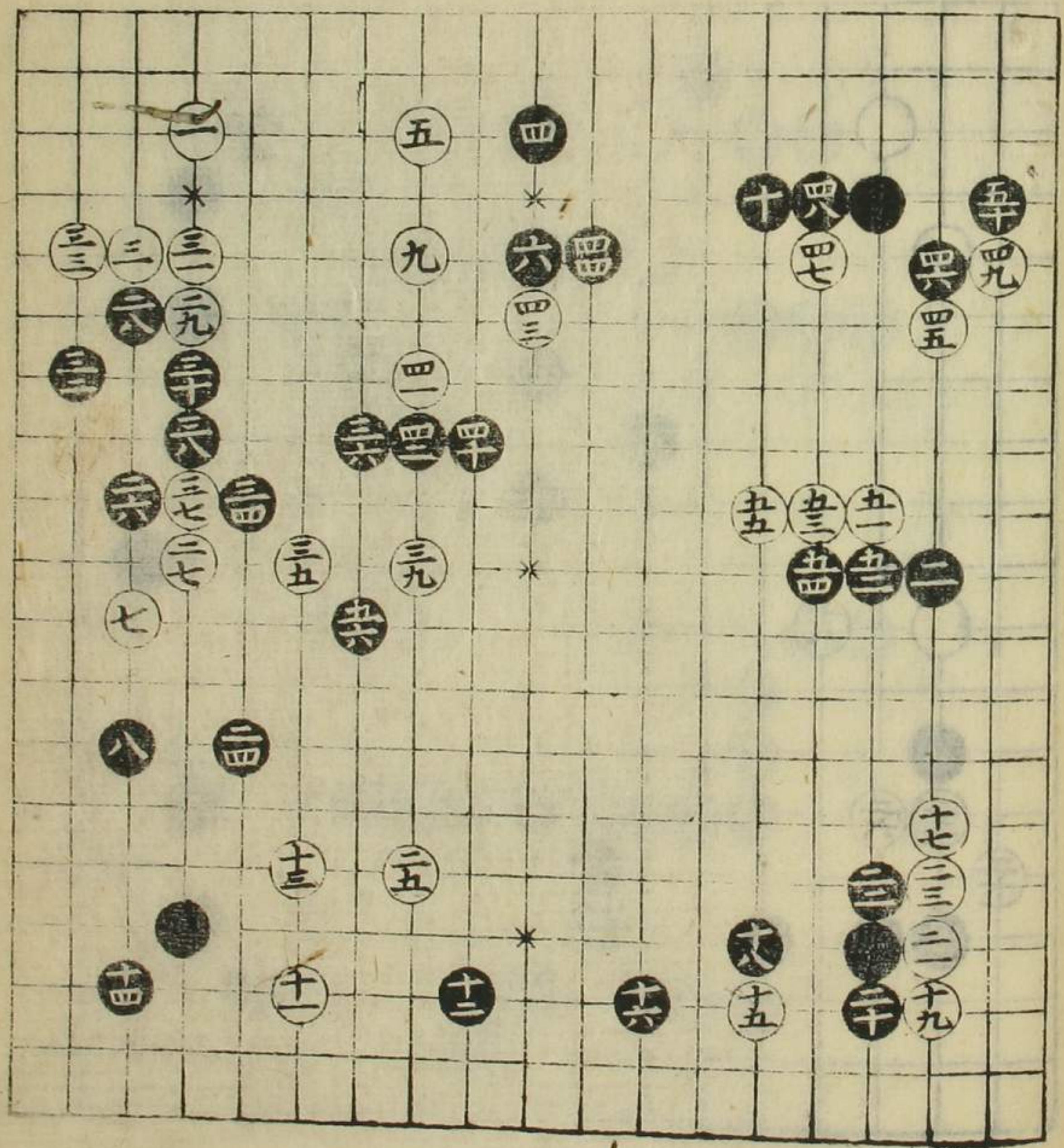
三目置之部

五

黒六の如大場取急
 一の打三三とぬ此先へ
 桂るに打あり白三
 六四れをを口下へ
 打角の黒を後く
 去て一目をせ四二
 と打張向吉以石
 立黒大くよ

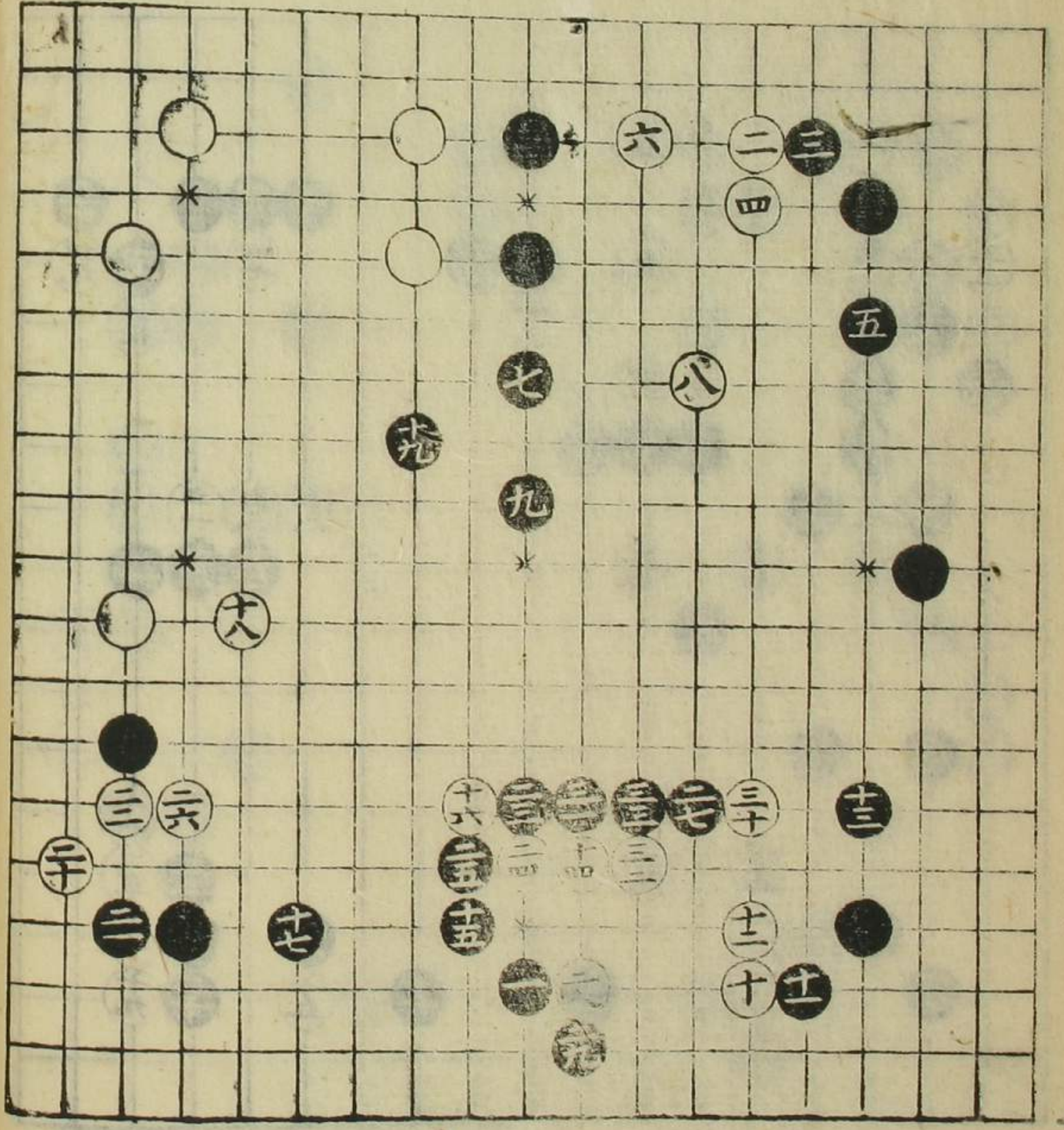


黒二四の外能取九九
 角を打せざる後三三と
 打込も後取方見し
 三三と打くもこの如
 是がより後取方見し
 是れは打込るに此
 ありてハ二向打なき形
 かりり打る方よ

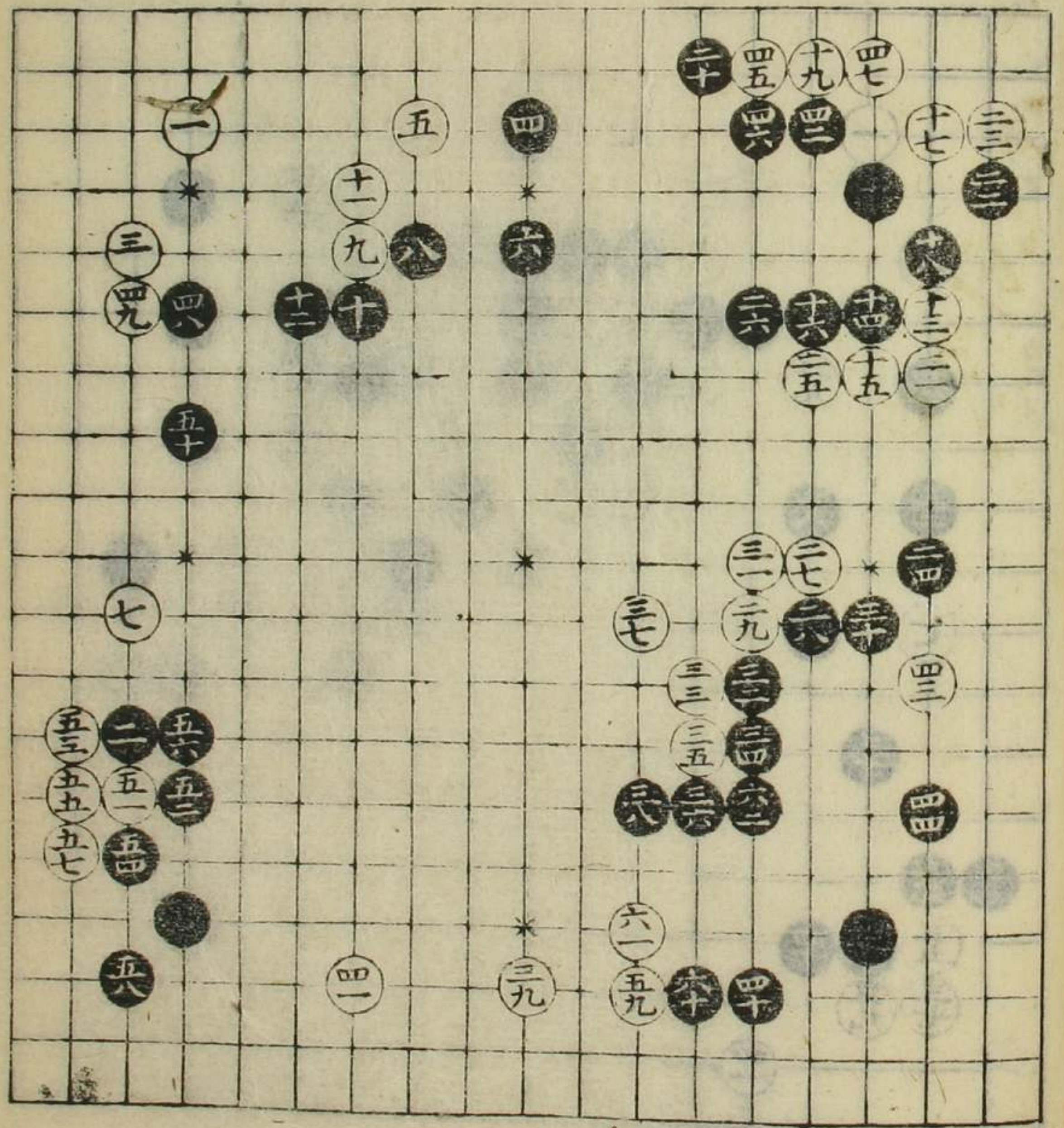


三目置之部

龍皇黒十は手より
 勝る
 黒一と此大場を歩
 白小歩の早しきよし
 龍皇は誠切に白三六
 龍皇をさしし二七を
 世取ふ成てハ必勝あり
 十七番
 十九番
 二三番

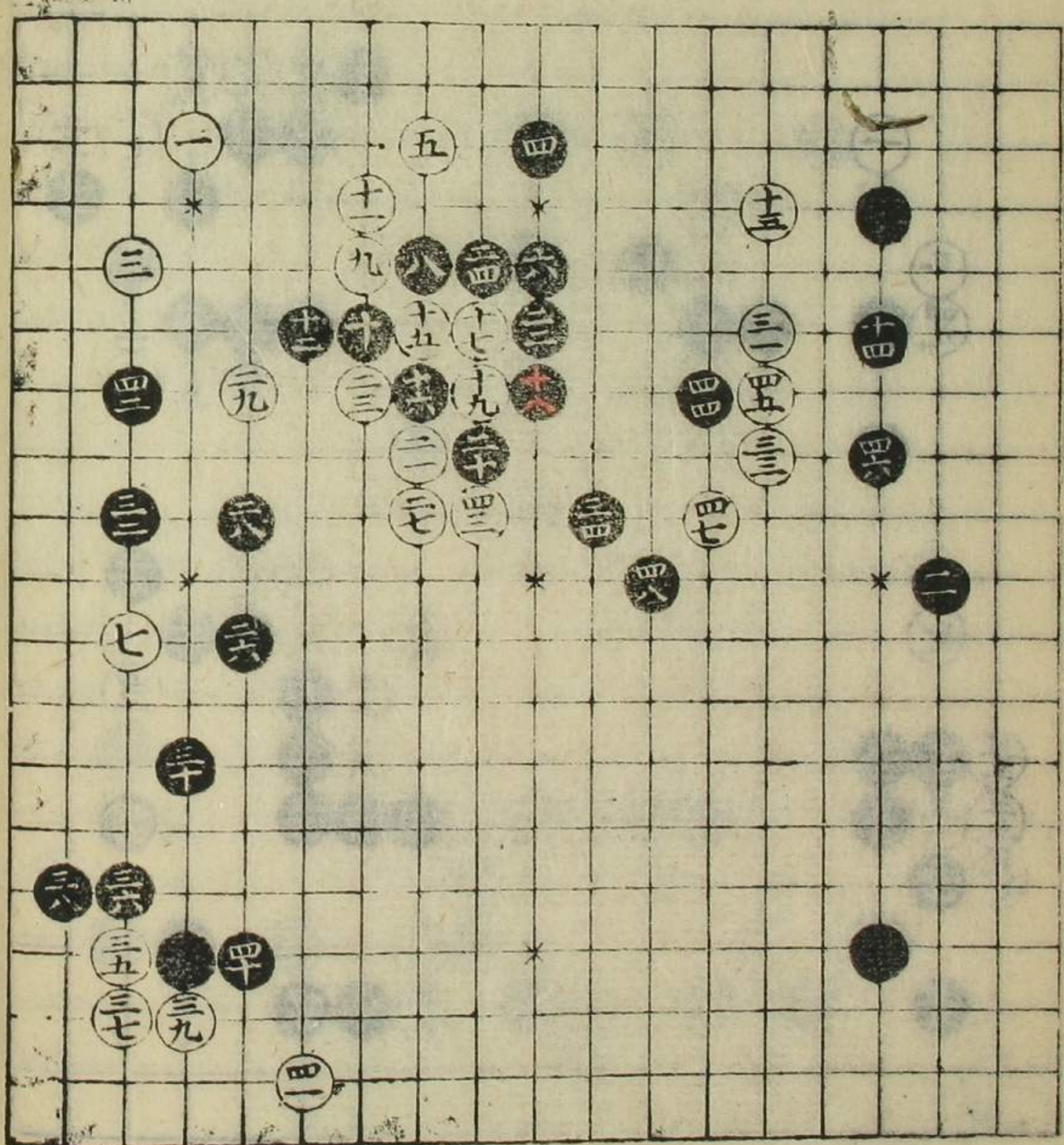


黒八の大場を歩はし
 三番ともて歩はし
 白は後並みは黒四十二
 一團抱て歩は南に歩は
 んゆはし一四八を厚歩
 あり並てハ後れたこと
 取は多きを名しし歩は
 此石は黒大より歩は
 次ふしき

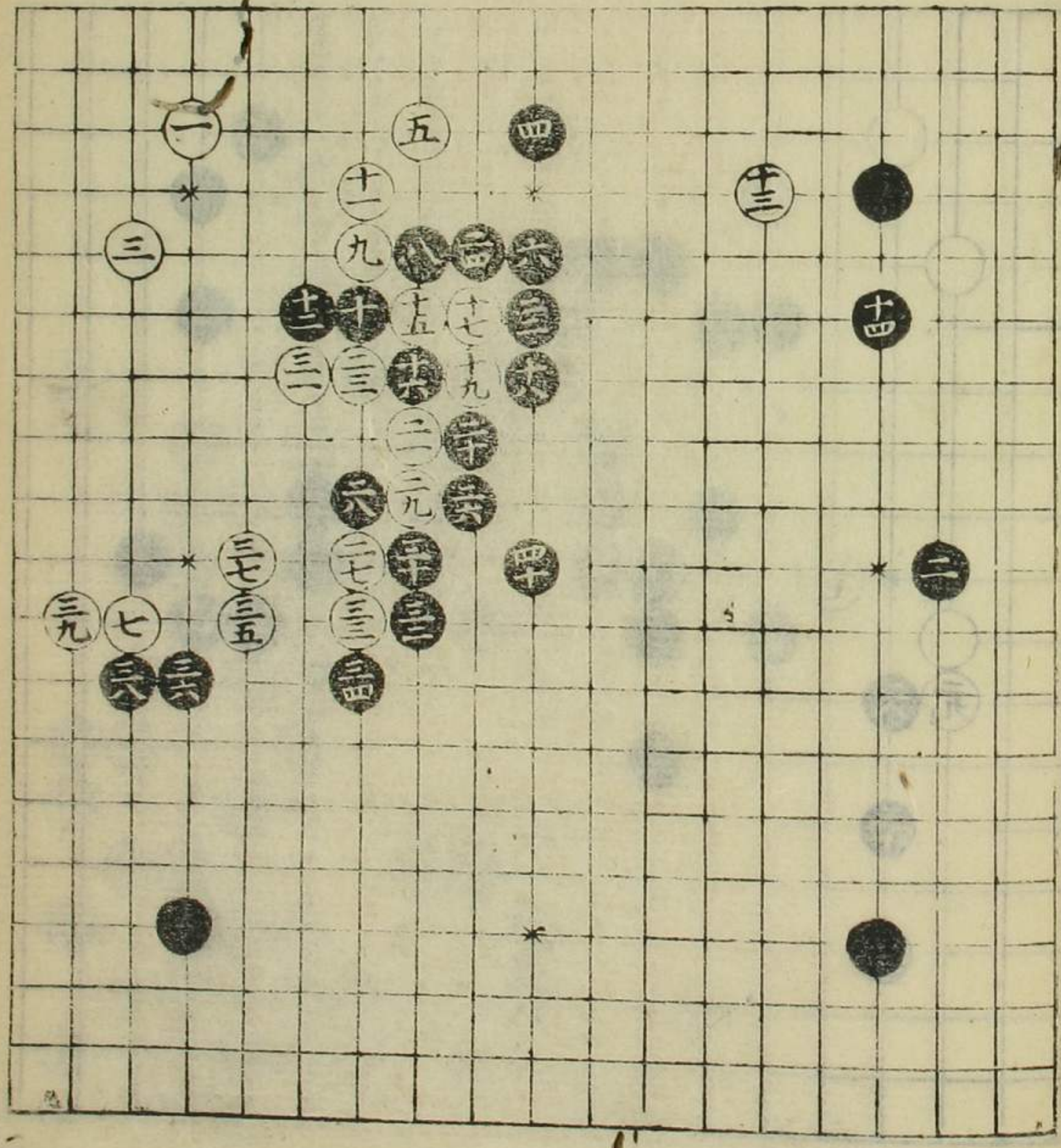


三目置之部

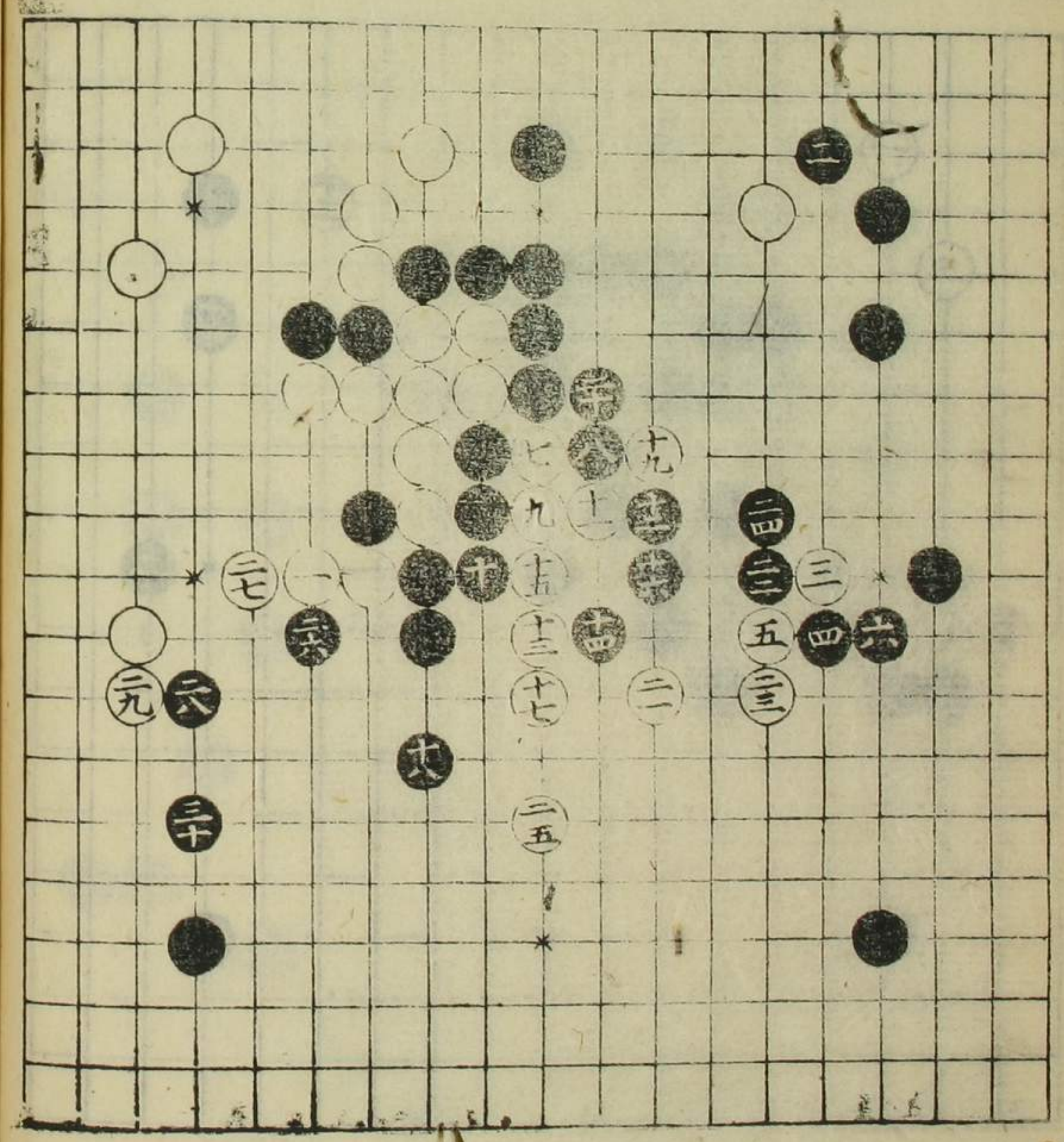
黒二六少一歩一決
 多法を記法如あり
 ても黒打よし四六
 匡取之四方備足ある
 多之んゆはなし
 決り一決す
 ⑤粘



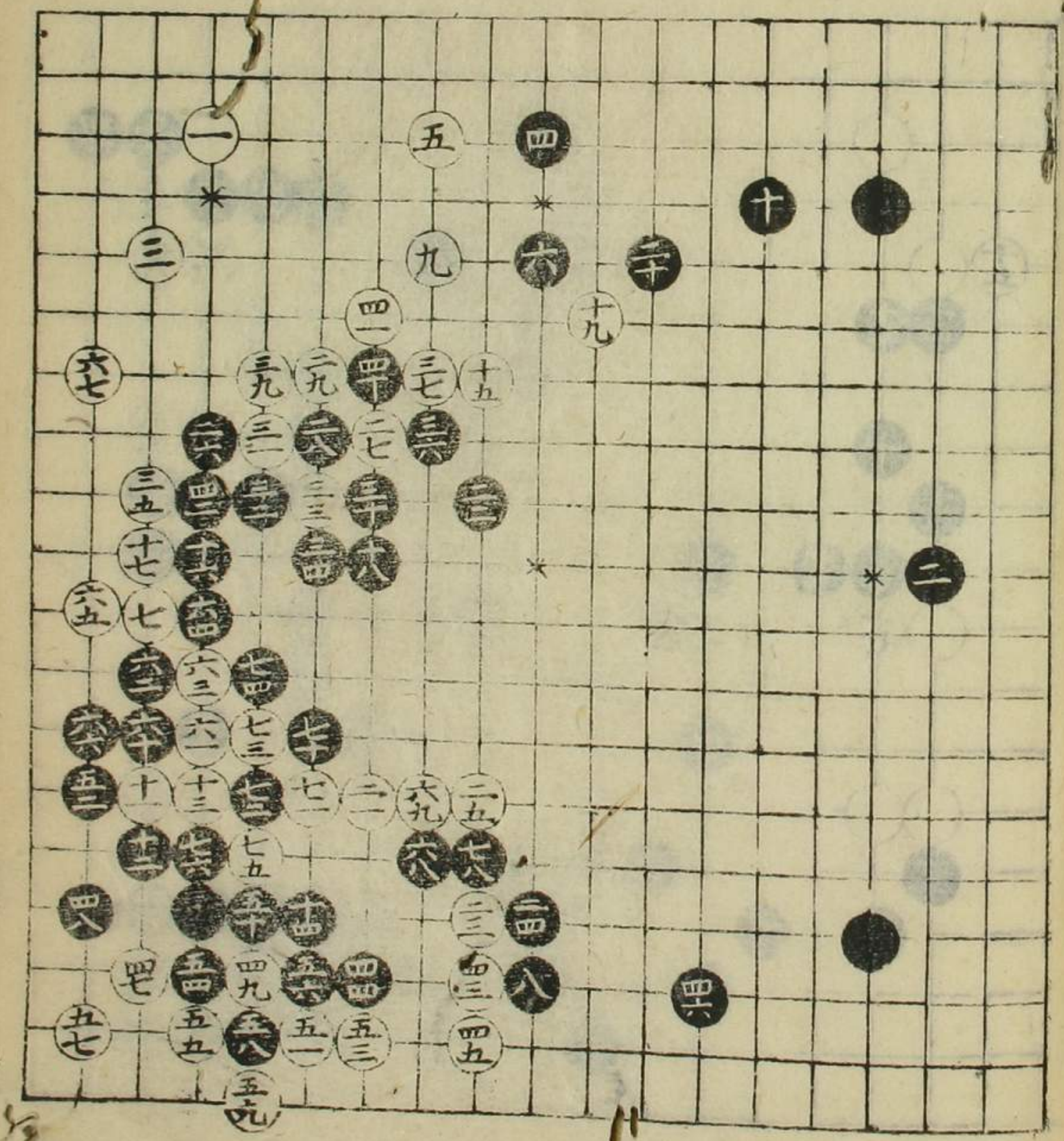
三六と歩一とかけ
 次録向大位小して
 論れもさる筋之ん
 均負一し此石立候
 あり終り決り記す
 二六者
 ⑤粘



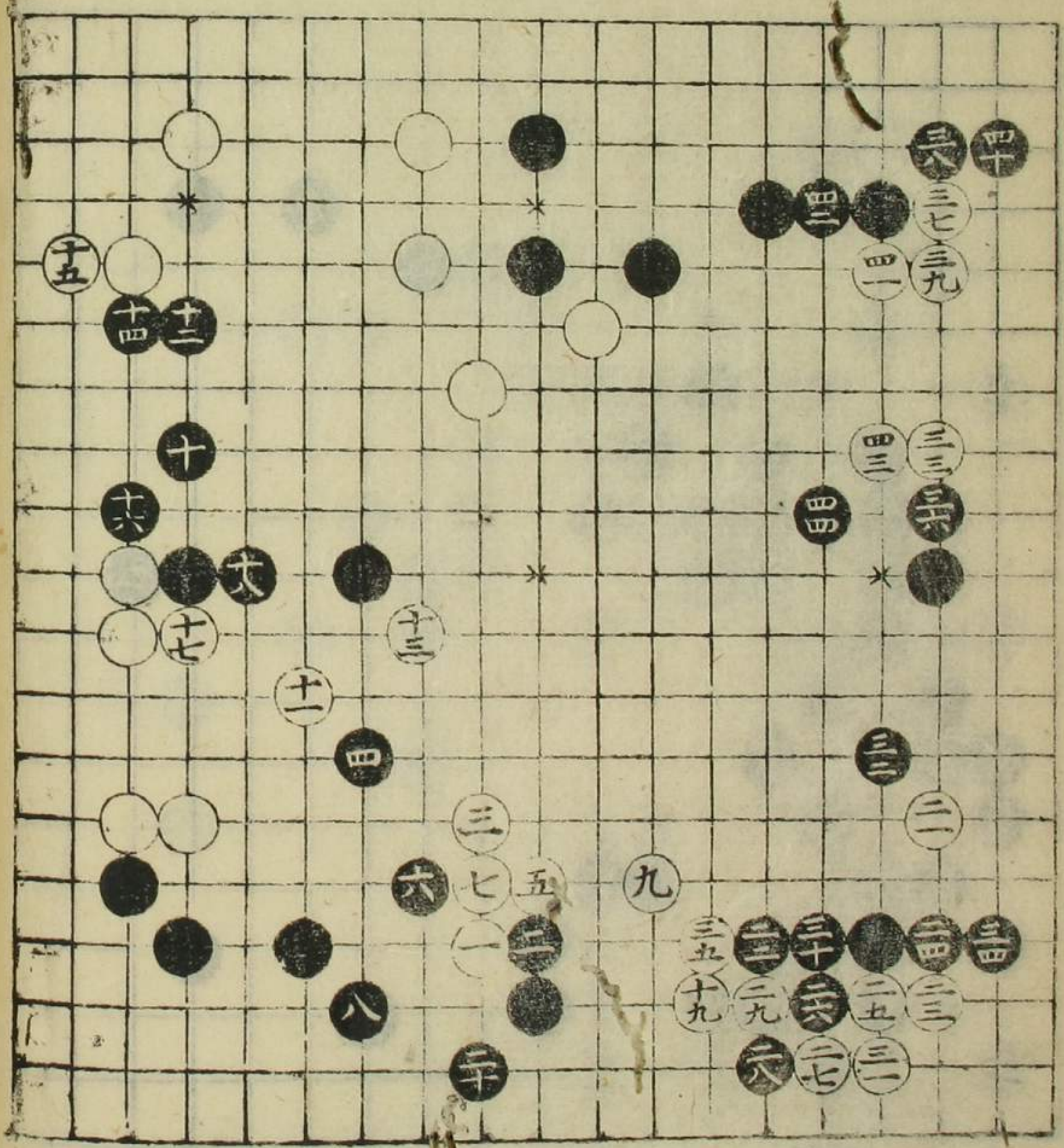
若墨白三三ばかり
 勢
 黒二六表小付て打
 返向面ふし考へ凡
 一三三三三三三三
 手厚しとよし此
 石立大より



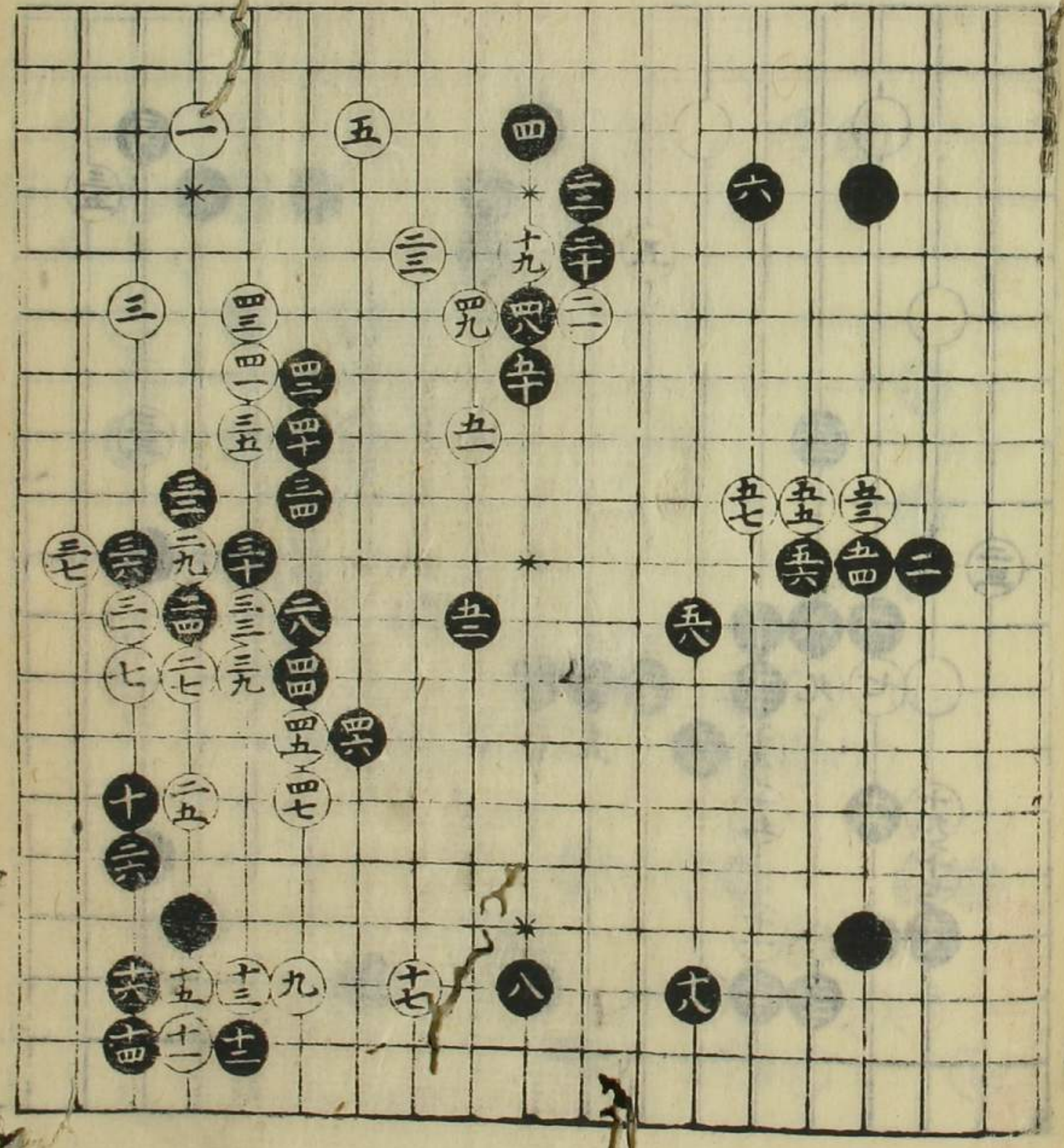
黒十六と打白十七の時
 ぬ毛漸く十八と二間飛
 石白二七の時二八と打
 ぬ此備て打返向面
 ぬ手筋之四七打込法
 く黒をせれぬと
 白人の悪しむれ古
 記を勢り次ふす



若墨白二れより
 勢
 黒四と折八とぬは打
 極向様ふしと若白十
 一の時十二と活く折若
 十九のふふく二十れぬ
 を折八十九の折三間飛
 二二と飛角を打せし
 三二と折八活かし三四と
 折三六と活く折八折八
 二若若石立位之勢り次
 十一と七

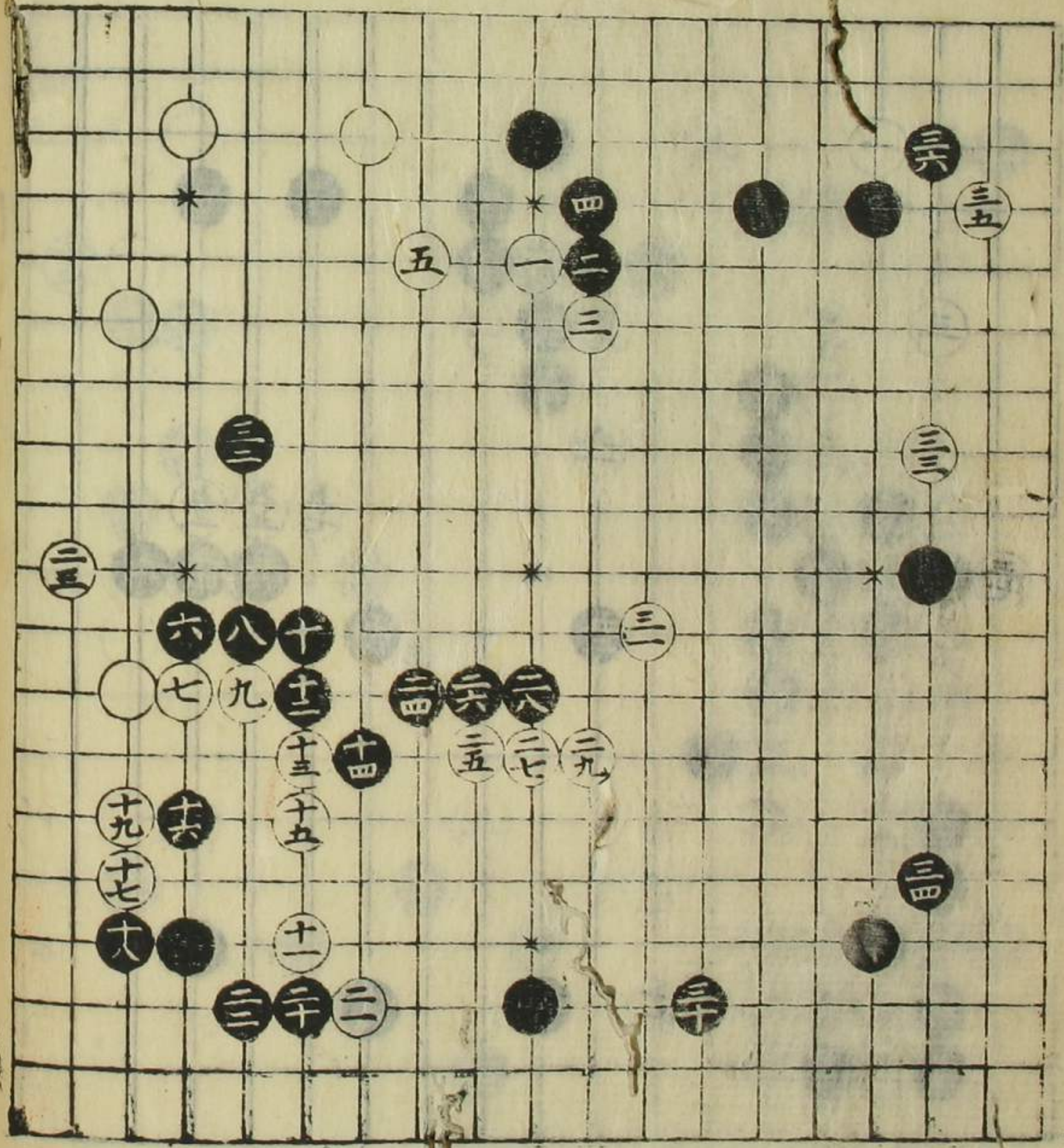


白二間飛もれ八上之飛
 愚しぬも六と折若し
 十七の折置き也黒も
 十八と二若飛方若黒
 四十と神四四の折押
 折五と若四八と切し
 ぬはぬてハ一筋ふし
 黒大り若若石立必
 猶也勢り次小記す

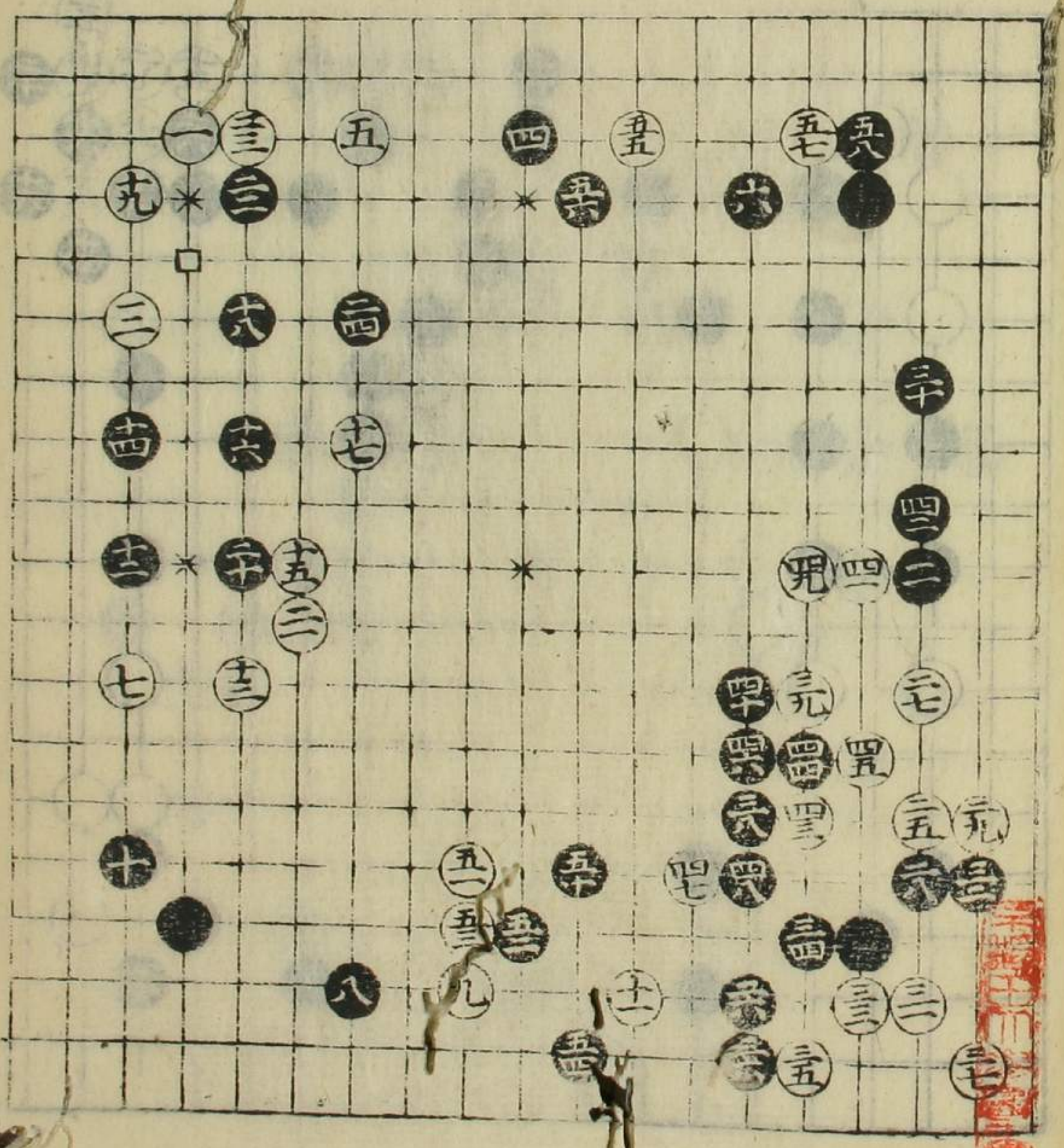


三目置之部

二石並九の石を
 勢
 黒三十白三二打
 てもよし三二よ
 めも勢よくも一白
 外に此石並九也
 勢り次ふまゝ
 十六番

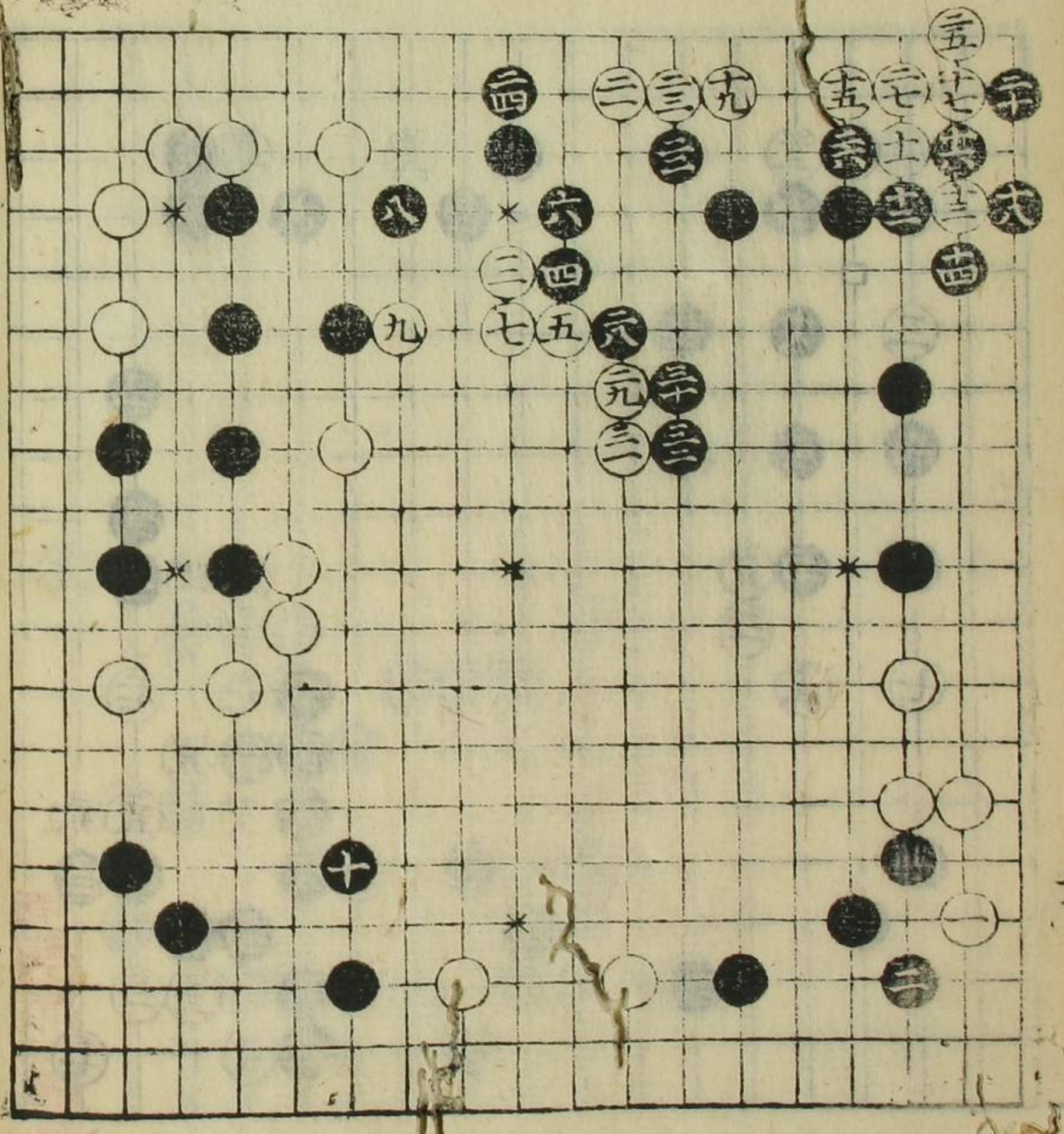


白十九打手を口
 尖打てもぬき二四と
 打之白三二を程あり
 少なりは方緯してハ
 必勝の取也
 勢次子視
 四六番
 五十番

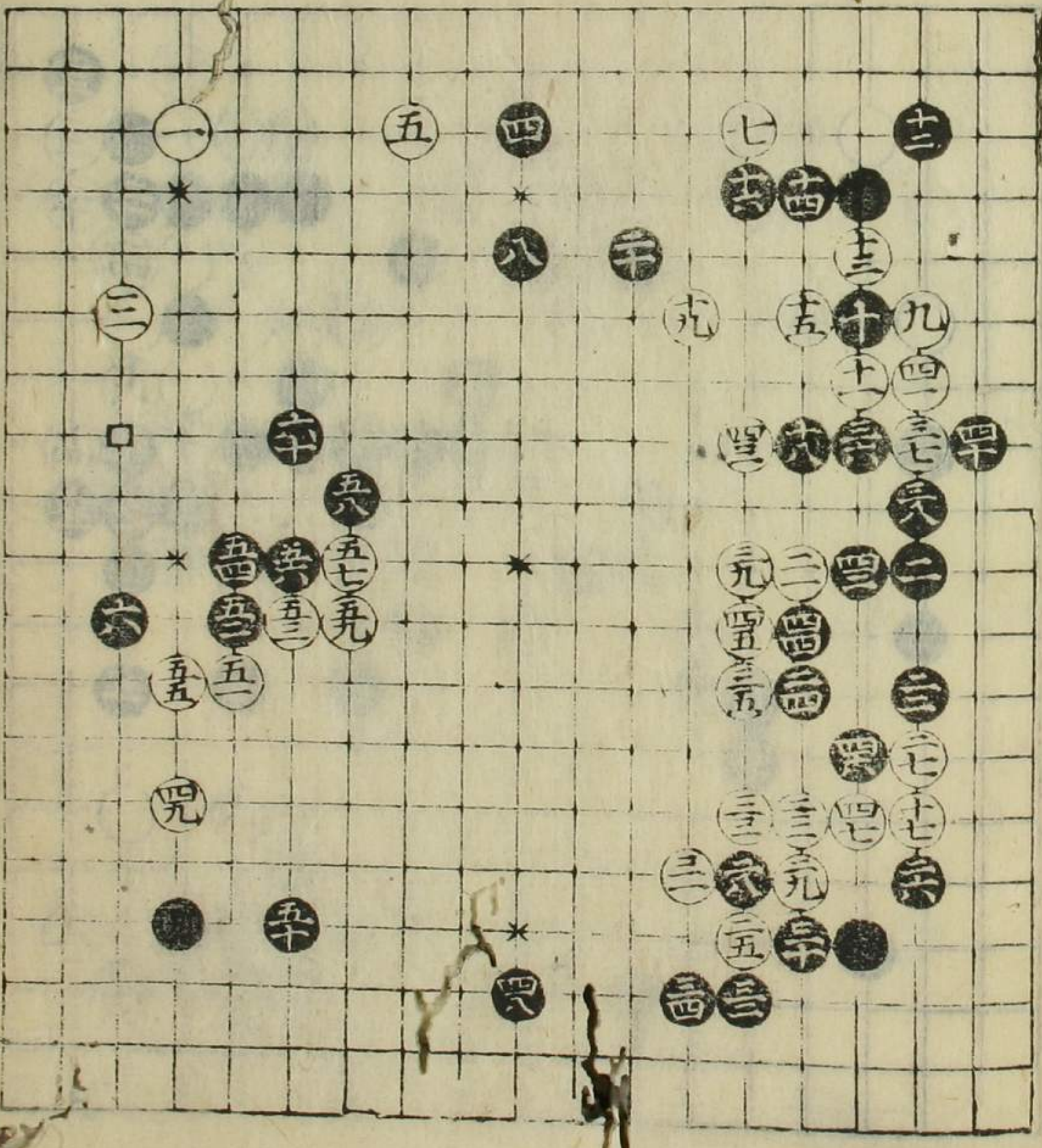


三目置之部

最良白三比より
 勢あり
 黒三比は三押角の
 白死を成す黒は
 成勢を成すは
 白九と中を掃りて
 歩八と歩一は
 大い各成り互黒
 勢次は記之

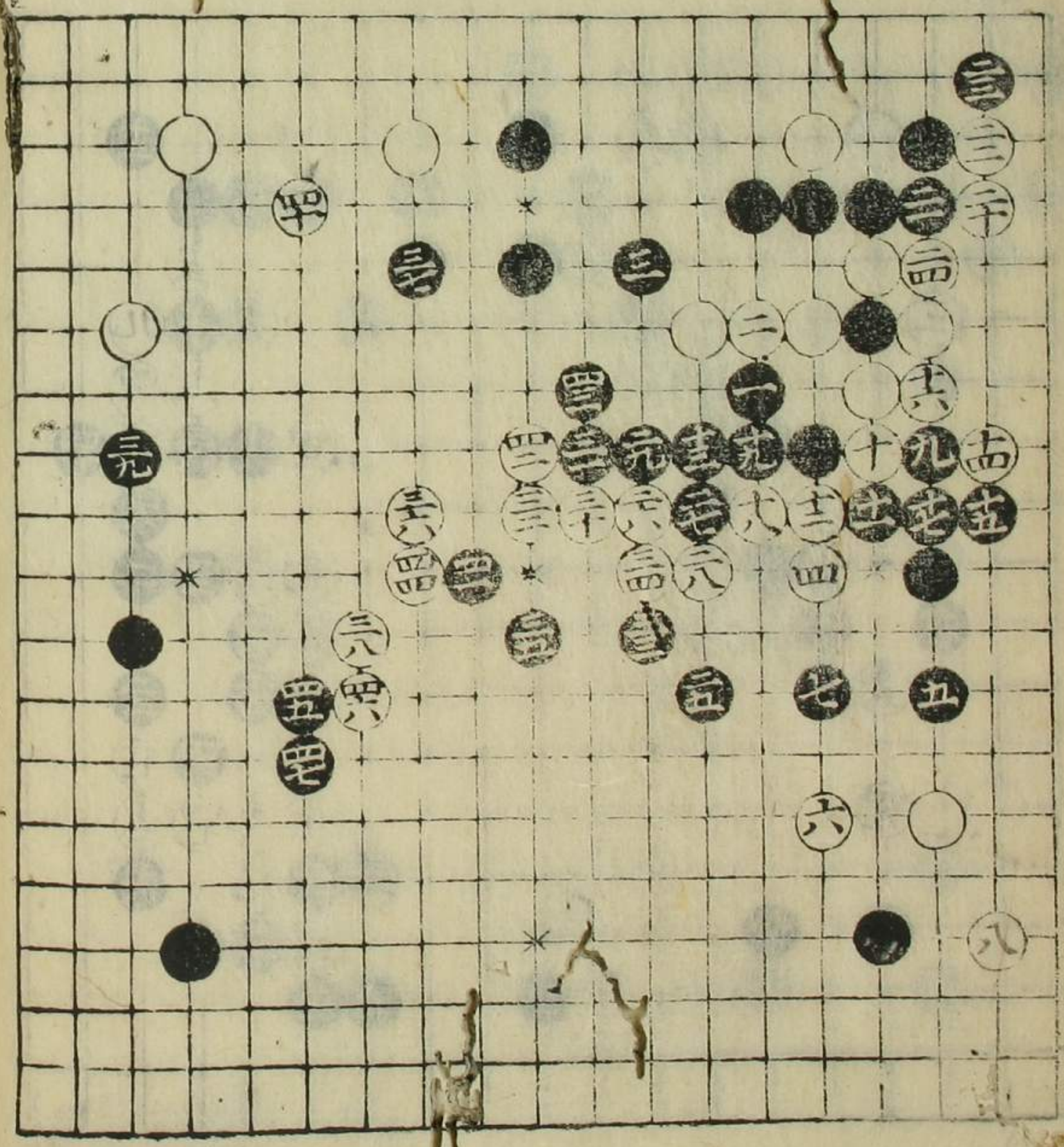


白五比は三間歩八
 と成るはゆは白
 の九比の時に付
 角を成せぬは
 考へて黒十八の
 歩は逆向者考へ
 へし黒五八を□に
 成すも途中の位
 成りも成すも佳
 勢次は記之

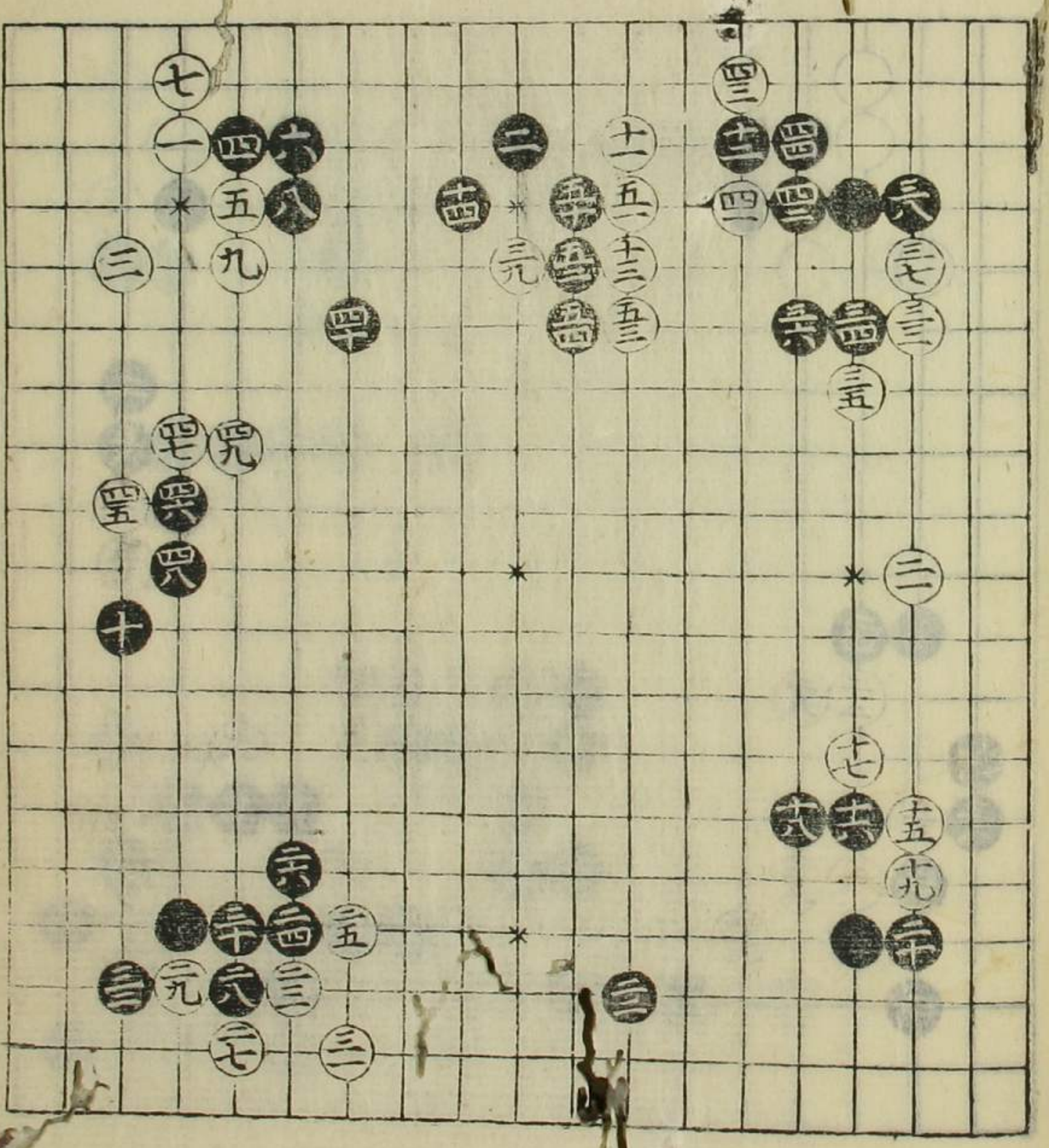


三目置之部

前黒二打は
 白八打九くは白を
 せりて打く三四の時
 二五打を重なる三
 三二打を三五とれ
 白をせり打ちぬは
 逆向ふ考へてし
 四打四打打を置
 けり後大者
 三七者
 三九者

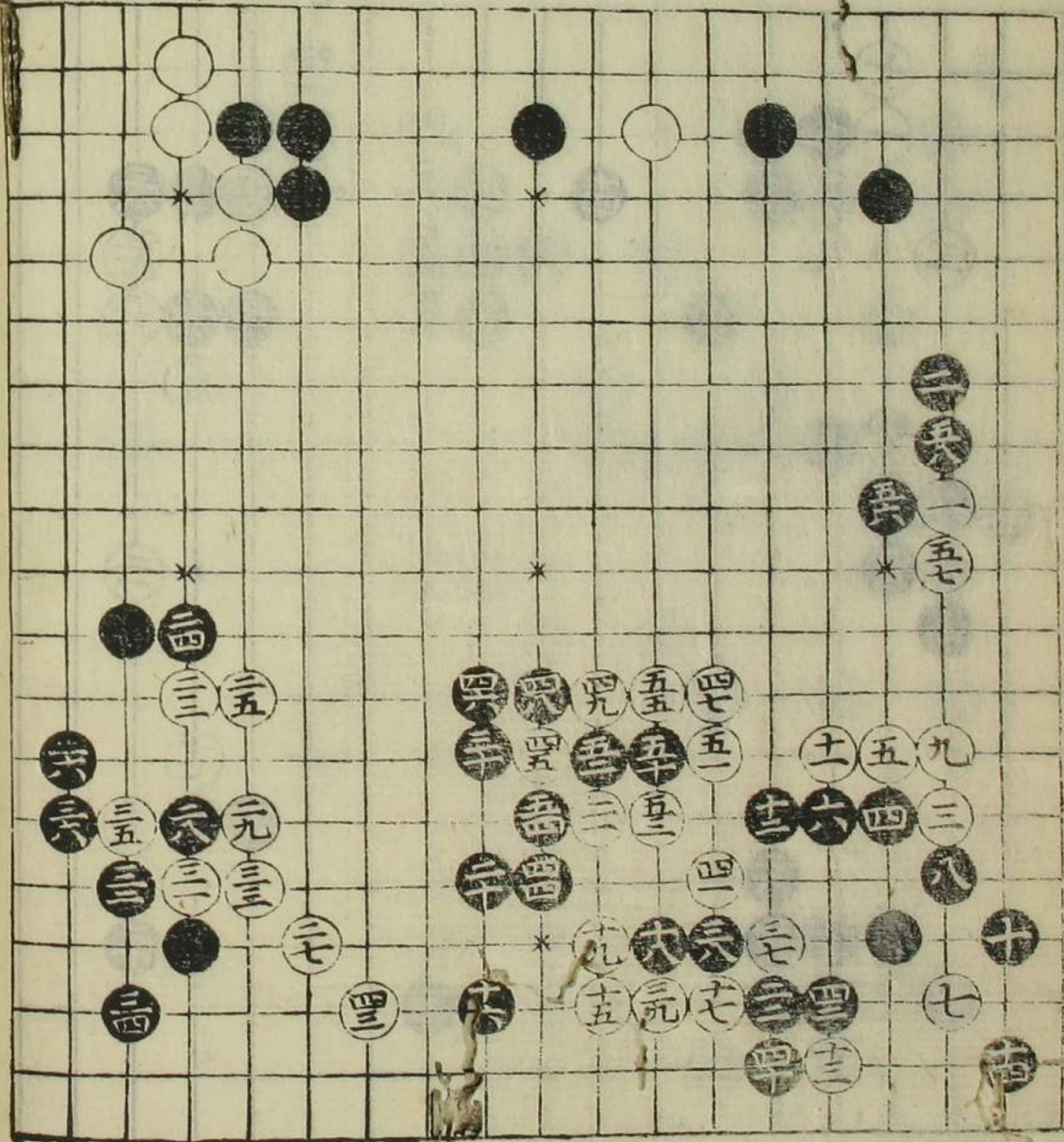


白九十三の時黒十四と
 ぬき打ち者五十七打ち
 此も後者世石五打
 ぬき打ち者五十七打ち
 四六者

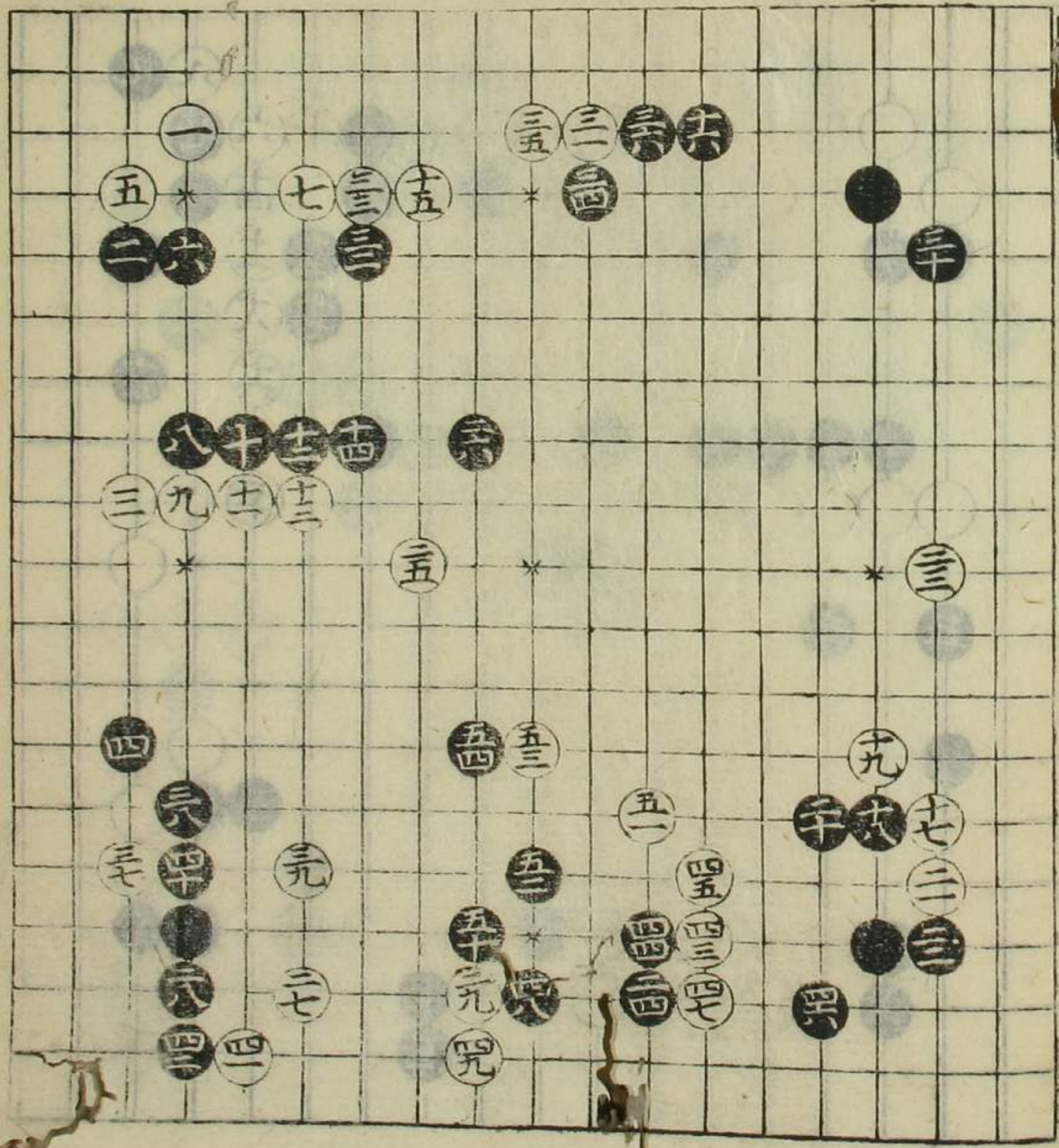


三日置之部

前番白十三手
 勢。
 此勢黒堅一七手
 一七手位六手
 折れ手筋有黒手
 少一為難古記之

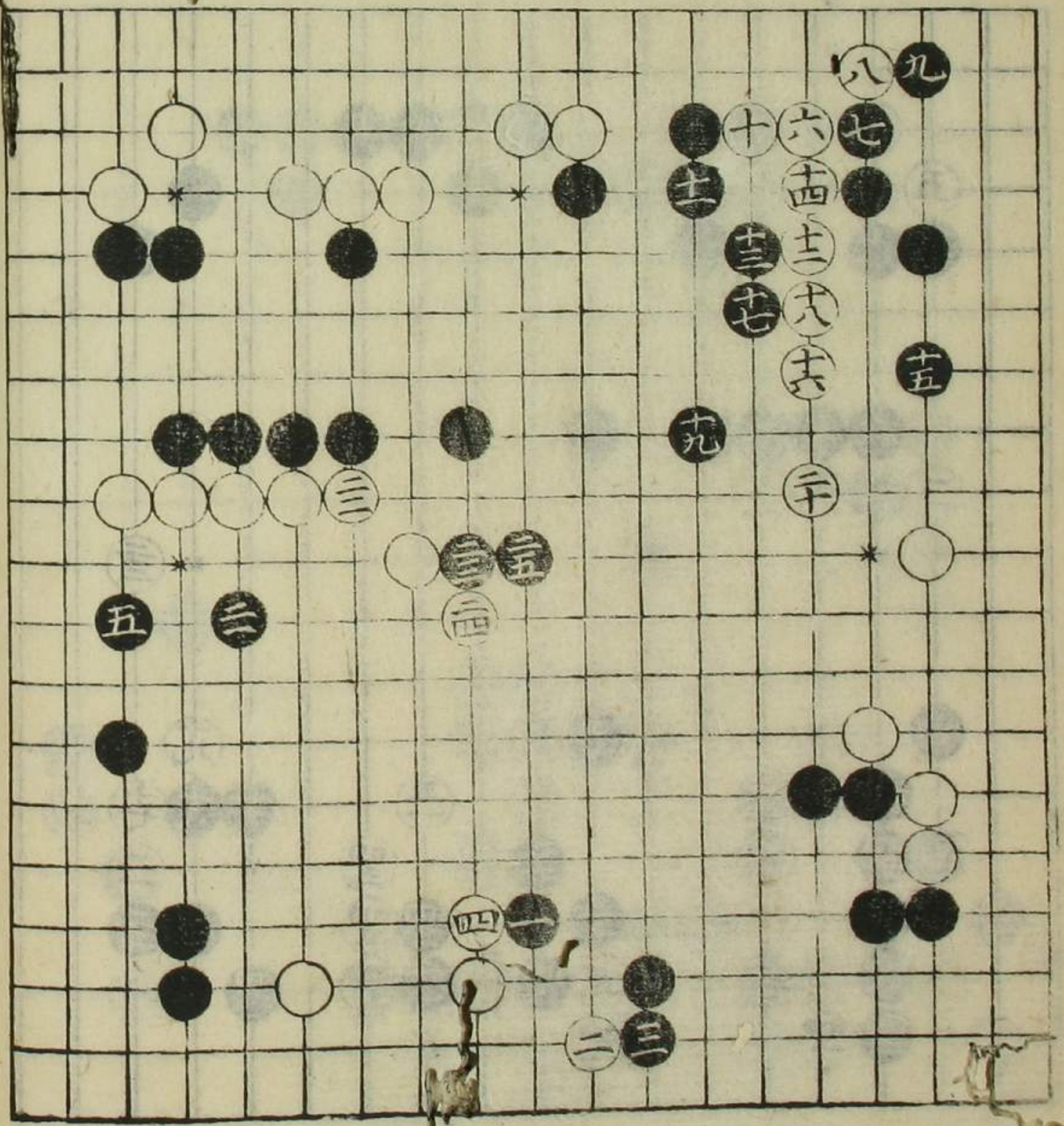


黒八と此是折れ手筋
 少一七手位六手
 の筋で少一七手位
 之黒四六と堅く此折
 四八と付て五十七と
 て折れ手筋有黒手
 立候之筋有り此小
 四手
 十六手

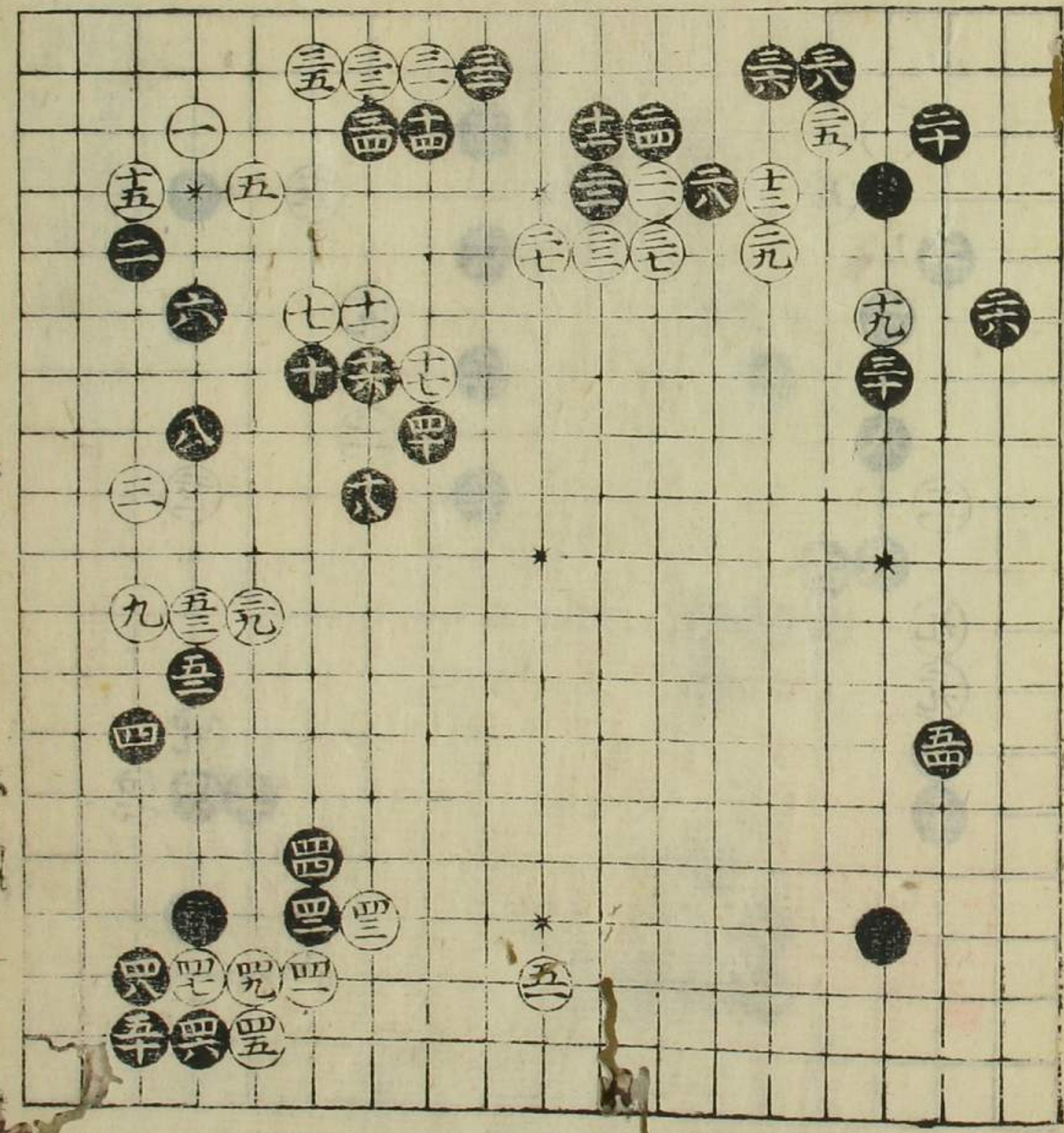


三目置之部

最是黒三十六はより
 妙
 ぬり一と打方おき活
 多く考へし三は
 後と厚くても世勢
 黒必捕の形
 五有

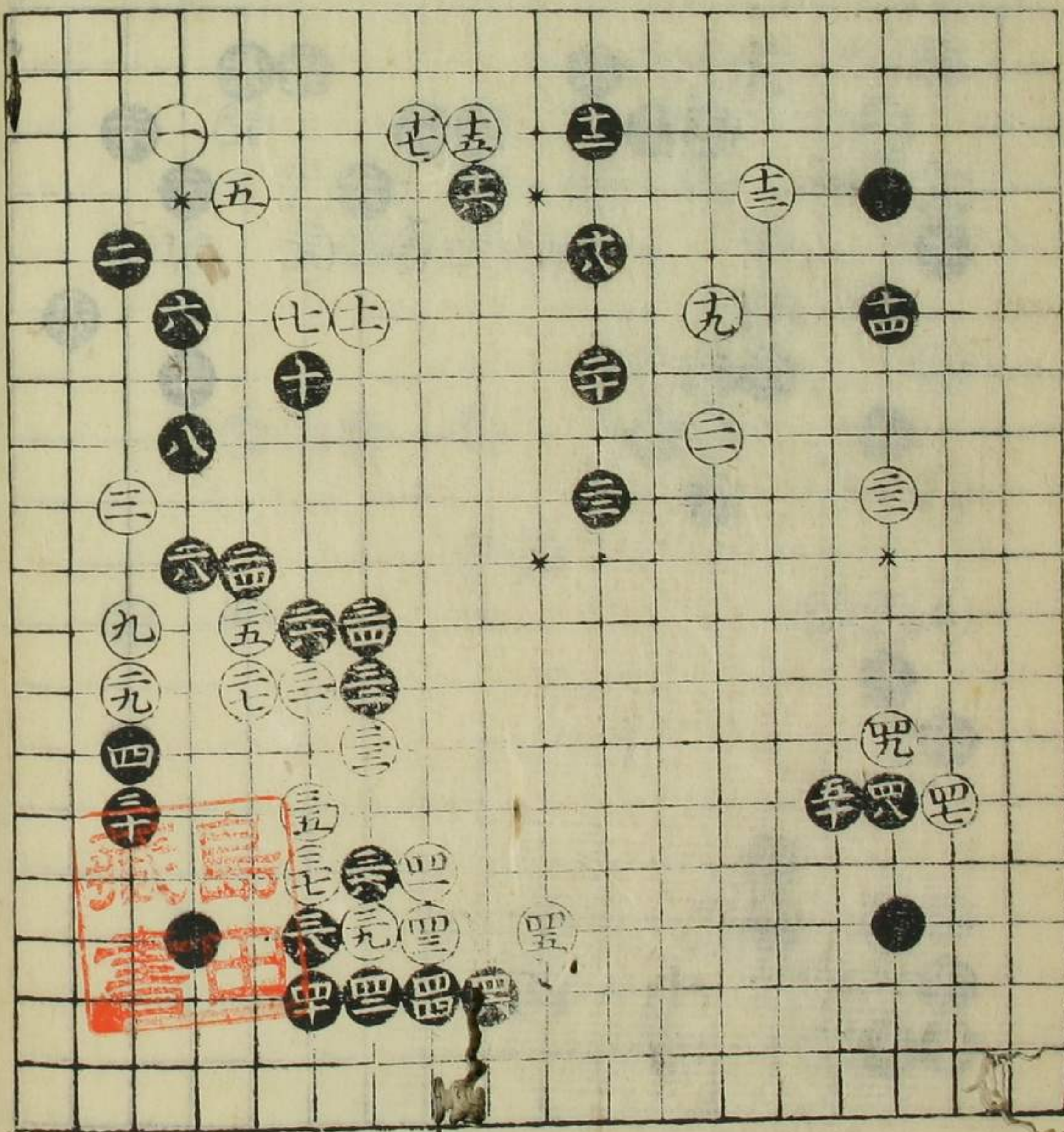


自十九の時千とぬり
 くと右白二五の時
 二六とぬりお八活
 心ゆへ一五は常
 小八悪し世ぬり
 不取大り右活
 立也勢次子記之
 十二有
 三十有



三目置之部

黒十四とぬき歩ても
 より白の二三の時二四
 と歩三十と引三の時
 強くと採て次三六を
 打一目弱くせおん後
 黒大よ必勝の形
 也



推
 糸

